

平成23年第2回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成23年6月15日（水曜日）

午前10時開議

邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（14名）

1番	塩井早苗	議員	2番	原義裕	議員
3番	松村潤	議員	5番	神谷長平	議員
6番	半田晴	議員	7番	坂井孝次	議員
8番	大野貞夫	議員	9番	田部井健二	議員
10番	小沢泰治	議員	11番	岩崎律夫	議員
12番	小島幸典	議員	13番	立沢稔夫	議員
14番	本間恵治	議員	15番	細谷博之	議員

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
河内登	教育長 職務代理者 学校教育課長
中村紀雄	総務課長
小倉章利	企画課長
半田実	税務課長
神山均	住民課長
相場利夫	生活環境課長
諸井政行	保険年金課長
小島哲幸	福祉課長
小島敏晴	産業振興課長 兼農業委員 事務局長
横山正行	土木課長
小島靖	都市計画課長
飯塚勝一	会計管理者 兼会計課長
茂木一夫	水道課長
大舩一	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

田	口	茂	雄	事	務	局	長
田	部	井	春	彦	書		記

◎開議の宣告

○立沢稔夫議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時00分 開議]

◎一般質問

○立沢稔夫議長 日程第1、一般質問を昨日に引き続き行います。

順次発言を許します。

◇ 大 野 貞 夫 議 員

○立沢稔夫議長 8番、大野貞夫議員。

[8番 大野貞夫議員登壇]

○8番 大野貞夫議員 皆さん、おはようございます。きょうは、一般質問2日目ということで、私8番、大野貞夫でございますが、きょうはトップバッターということで質問をさせていただきます。私もできるだけわかりやすく質問するように努力をしていきたいと思っております。執行部の皆さんにも明快に、町民にできるだけわかりやすく答弁をいただければと思っております。

ところで、去る3月11日、数百年に1度という大変大きな未曾有の大震災、そしてそれに続く想像を絶する大津波、さらにそのことが引き金になりまして発生した原発問題、これまさに地元の皆さんにとっては三重苦、こういうことが言えると思っております。被災後3カ月もたったわけですが、この3カ月以上たった今日でも、毎日テレビやラジオ、マスコミもこのことを取り上げない日はないというのが、今日の実情ではないかと思っております。今、日本列島の福島原発からはるかに離れた地域からも、放射能による汚染が報道されるようになってきました。あれだけ安心、安全と言われた、いわゆる原発の安全神話がもの見事に崩れ去って、はるかかなたのヨーロッパでは、ドイツやイタリアが原発からの脱却を表明すると、こういうような情勢になっております。それにしましても、現地で被災をされた多くの人たちが、今なお塗炭の苦しみにあえいでいる、このことを思いますと本当に心が痛むわけでございます。私たち日本人も、これから心してこのことについてもかかからなければならない、こういう時代に入ってきたのかなという気がいたします。

さて、本日私の質問は、さきの3月議会に引き続きまして、邑楽町の障害者、特に子供たち、この子供たちが抱えている現状、それに対する町の課題についてということで、検証しながら町長の考えをお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

私3月の議会にもお話をいたしましたわけですが、いわゆる障害者福祉、障害者の自立支援法、これは2005年ですか、平成17年に障害者の自立支援法というのが成立をしたわけですが、私からすればこれは社会保障の削減、これがねらいだったのではないかと、いわゆる当時言われた小泉構造

改革、これに基づいてつくられた法律だというふうには私は理解をしております。ですから、これがつくられた段階から国民の中では、いわゆる障害者を中心としたその家族とか、非常に反対がございました。今でも余り評判がよくありません。そこで、今の民主党政権もこれを早速、今度は総合自立支援法、こういうものに変えようとしております。いわゆる障害者には身体、それから精神、それから知的、こういう分野があるわけですが、この垣根を取っ払ってしまおうと、これを一緒にするというような考え方だというふうに聞いております。邑楽町では1995年といいますから、もう随分たつわけですが、平成7年の3月に邑楽町の障害者福祉計画、これが策定されました。もちろん数値目標を持ってこれは策定されたわけです。こういう中で今日の、では今の邑楽町の実態はどうなのかという点からお話に入っていきたいと思います。

小学校、中学校、これの現状はどうなのかということになるわけですが、いわゆる障害者の問題というのは、学校においては一つは3つに分けられるということになると思います。私は、所管の関係で課長さん初めいろいろ資料をつくっていただきまして、その資料をもとにいろいろ質問しているわけなのですが、特別支援学級、いわゆる特支学級です。それから、2つ目が特別の支援学校というのがあります。それから、通級指導教室というのがございます。今少子高齢化ということで、子供の数が非常に少なくなってきました。それにもかかわらず、障害を持った子供たち、これが非常にふえていると、こういう現象が今の日本の社会の中にも生まれております。普通子供が少なくなれば、障害を抱えている子供たちも数が少なくなるのが普通ではないかと思うのですが、逆なのです。これはどうしてなのか、いろいろ原因はあろうかと思いますが、まだ明確にこれといったものは出ておりません。ちなみに、邑楽町の小学校ではどういう状態になっているかといいますと、いわゆる特支学級と言われているクラスが8クラスございます。中野小学校で1、そして特支学級にいる子供の数が6人、それから高島小で2クラス3人、長柄小で2クラス7人、中野東小で1クラス3人、中学校いきますと邑楽中1クラス4人、邑楽南中で1クラス3人、合計で8クラスで26人、こういうことになっております。

それからもう一つは、このほかにクラスの中で学びたくても学べない、いわゆる重度障害者というのがあるわけです。これは、先ほど言いました特別支援学校と違って、いわゆる邑楽町の町内の学校ではなくて、例えば言いますと肢体不自由児施設両毛整肢療護園というのですか、こういうところとか、あるいはこれ桐生市なのですが、あさひ養護学校、もちろんこれほかにも足利市にもございますし、太田市にもございます。これは高校まであるわけなのですが、こういうところにも行っている子供の数が、今邑楽町でいきますと群馬県立聾学校というところに1名、それから今言ったあさひ養護学校に小学校の1年、4年、中学1年、3年、合計6名、館林市立養護学校に4名、それから群馬県立赤城養護学校小児医療センター、こういうところに1名、計12名の方が行っておるわけでございます。

町長、少子化と言われている中で、こういう障害を持っている子供たちが非常に多くなっている

ということを私申し上げました。こういう現象を町長としてどんなふうに感じておられますか、まずそれをお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 少子化の中での障害児の方が多くなっているということについては、これは大変憂いところでもありますし、その多くなっている原因が、さまざまな要因ということがあるのだろうと思いますが、いずれにいたしましてもそういった状況があるということについては、これは真摯に受けとめていかなければいけませんし、加えてそのような支援体制をいかに考えていくかということが求められるのではないかと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 今私この特別支援学級、特別支援学校を申し上げました。

もう一つが、通級指導教室というのがございます。これはどういうことをいうかということ、一口で言うと言語障害、なかなか思ったことを自分で言いあわせないというのですか、言語障害の通級指導教室というのがございます。通称ことばの教室と言われているものであります。これが邑楽町では、中野小学校でやっているのです。何名行っているかということ、通級在籍児が50名、非常に多くの子供たちがここに行っております。この通級指導教室というのは、いわゆる通常学級といえますふだんの教室の授業なのですが、通常学級で学びながら、部分的に通級する制度という、ちょっとこれ私の調べたときにこういう文句で書いてあったものですから、どういうことかなと思ったのですが、いわゆるふだんの授業を受けながら、授業を抜けていくわけです、途中で。授業を抜けて、そして中野小学校のそのクラスに行くと。ですから、例えば高島小学校、それから中野東小学校、長柄小学校にいた場合に、自分の学校にはその教室がないわけですから中野の小学校に行くという点では、自分の学校にあるのかなのかによって、その本人にとっての負担条件というのは大きく異なっています。普通であれば、各学校に本当はあればいいと思います。なぜこういうふうになっているのかなというので、いろいろ調べました。そうすると、これはやはり大きな欠陥があります。それは、国のいわゆる教育条件というのが制度的に保障されていないのです。それは、いわゆる普通の一般の学校のあれでいけば、一クラス何名、教員がそこに何名とかという制度がちゃんとできているわけですが、この通級指導教室というのはそれがありません。これは、非常にこれだけ人数が多くなってきている中で、こういうものが制度化されていない、これは一地方自治体だけの問題どころではなくて、やっぱり国、県、こういうところにかかわってくる問題だと思います。いわゆる学級編制や教員配置の基準がない、こういうことが一つ原因で、ですからできるだけお金をかけないで効率的にやろうとすると、経済的な面からすればこういうことにも当然なってくるわけです。ですから、こういうことが一つあります。

もう一つは、障害者の幅が非常に広がっていると、いわゆる障害にはいろいろあります。この種

類が、ただ一口に障害と言ってもいろいろあるわけですが、このあれが知的障害とか肢体不自由、それから身体虚弱、弱視、難聴、それから自閉症、それから情緒障害、こういう幅が非常に広がっております。こういう中で、ではそこを担任する教師、これはどうなっているかという、これが非常にまたネックになっています。いわゆる担任の確保の問題です。これは、こういう障害者の数が多くなっていくという中で、1つは専門性を持つ教師の確保が非常に困難になっているということです。

ちなみに、邑楽町ではどうなっているかという、8クラスあります。26人を抱えている中で、いわゆる専門的な免許を持っている教師はたったの2人です。高島小学校で1人、それから長柄小学校で1人と、2人しかいないのです。では、あとどうしているかという一般の、これは多分そうだと思います。多くの自治体でもそうなのでしょうが、学校に配置をされた教員の中から、次の年に特別支援学級を担任する先生を選任している、こういう状態ではないかと思います。その経験もなく、またこれを希望するという教師も非常に少ないわけです。こういう中で、場合によっては臨時採用の教員をお願いするという比率も大分ふえているという話を聞くわけですが、こういう点で、いわゆるこれを担保する、保障するための受け皿が非常に薄弱になっているという点が1つあると思います。その免許を持っていない人は、特別支援教育コーディネーターという名前で配置をされているらしいです。ですから、ここに配置をされている先生も、大変な思いで実はやっておられるのではないかと思います。こういう現状を、実は町長、邑楽町はこういうところに問題が出てくるのですけれども、教育長は不在だと。教育長は不在ということで、そういうことをやはりストレートに持っていける場が非常に狭まっているのではないかと思います。だから今、昨日も教育長の不在の問題がいろいろ出ました。こういうところにも、やっぱり影響が出ている、こういうことが私は言えるのではないかと思います。

この体制がこういう状態だということについて、これを改善していく、そういう方向に私は考えていかなくてはいけないのではないかと。確かに通級は、今言ったように中野小学校しかない、しかし50名もいるということは、一クラスだけでやっていくと、現実には授業を抜けていくわけです。そうすると、1人の子供に対する時間、仮に1時間かけてやったら1週間で終わらないですね、50人もいるのですから。そうすると、中には2週間に1回とか、こういう子供たちも現実にいるわけです。こういうことを解消していくためには、そこに担保するだけの人員の配置、こういうことも当然考えていかなくてはならないのではないかと思います。その辺はいかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 教育については、いろんな状況があっても等しく教育を受けるという権利はそれぞれに保障されているわけでありますので、議員がご指摘のように障害があるからということで、そ

のことが阻害されるということについては、これは大変憂慮すべきだというふうに思っております。

そこで、障害児者の障害の特性と申しますか、具体的に議員申されました知的障害児の方、あるいは情緒不安定、ダウン症の方等々いろいろあるわけではありますが、しかしその障害の程度に応じて等しく教育を受けるということは、大変大切なことだというふうに認識をいたしております。

そこで、先ほど具体的に町内における各学校の通学をしている方々、小中合わせて26人という方がおられるというようなご指摘です。それぞれの学校で、その資格を持っている方は少ない状況ではありますけれども、マンツーマン方式、あるいは個別方式に基づいて指導しているということは、私は保障されているのではないかというふうに思っております。特にそれらを指導する先生方が不足している中で、特別支援コーディネーターということでもあります。そういったことを十分考慮しての学校を経営される校長先生の配置がされているというふうに思っておりますので、私は先ほど教育長が不在ということについては、これも関係があるかもしれません。これについては昨日もお答えいたしました。早い段階で教育長の選任をお願いしたいと、そういう考えでいるということをお申し上げましたので、ぜひご理解をいただきたいと思うわけですが、さて、そのような状況の中で小中学校、そしてこの4月からは館林市に県立館林高等特別支援学校が開校されました。町内からも通学をされている方がおられますけれども、先日も私も理解が不足していたものですから、この校長先生と教頭先生にいろいろお伺いをした経緯はあります。したがって、教育を等しく受けながら、社会生活が、そして自立をした生活ができるような環境ということは、まず学校から始まっていくのではないかと思います。

それから、ことばの教室の関係であります。50名の方が通級をされております。この指導教室も中野小学校ということですが、1つには指導する先生の配置の問題も当然考えられるわけですが、学校の授業時間が終わった後に、それぞれ中野小学校に通級していただいて、ことばの教室、言語障害の解消に向けて担当する先生が努力をいただいているということでもありますので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。繰り返しになりますが、そういった指導体制が不十分である、教育制度が十分整っていないというようなお話もありましたが、私も郡、あるいは県のほうにもそのようなご意見があるということもお伝えした中で、一日も早い充実を求めるものでございます。

申しわけありません。先ほどの答弁の中で、特別支援教育の支援員であります。町のほうも町独自の予算をとった中で指導助手を増員していると、23年度においては、そのような経過もありますので、補足をさせていただきます。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 現状は、障害者の問題というのは非常に重い問題です。厄介な問題です。お金もかかります。だから、例えば老人介護とか、こういうことについては民間にお任せする場合には、このことで経営していく希望者というのは割と多いわけですが、障害者の問題というのは余り

受け手がないのです。これは、今言ったように悪い言葉で言えば余りうまみがないとか、それから大変だと、そういう分野なのです。しかし、ここに関係している障害者のご本人はもとより、そのお父さん、お母さん、家族、これはすごい我々には想像もつかないような悩みや苦しみ、こういうものを抱えながら毎日の生活を送っているというのが現状です。

私は、前回にも町長に申し上げましたが、これは例えばいわゆる民間で、邑楽町でいくとなのはな園というところがございます。それから、今度風の子保育園の中にこういった施設を今つくろうということで、現在申請中というようなことも聞きましたが、小学校の低学年から高学年まで、この子供たちは既に面倒見ているというようなことを、実は昨日園長にも行き会って、その実態をお伺いしてきたところでありますけれども、非常に大変だと。実情を聞きますと、なかなかこれはもう本当に当人、その家族だけの問題ではないと、最終的には公の機関として、こういうことにはやっぱり対処していかななくてはならない問題、いわゆる障害者福祉の基盤整備。これは、いわゆるそこに住民の命と暮らしを守るといふ本来の自治体の役割からすれば、この責任をやっぱり問われる、こういう課題ではないかと思うのです。これは、今後もますますこういった子供たちや障害者がふえていく中で、ここを避けて通れない、こういう問題でもあると思います。

やっぱり今の日本の社会というのは、特にこういう、いわゆる今言ったような障害者に対する理解は、非常に私は乏しいと思います。非常に冷たい。そういう行政が、国を初めとして非常に不十分な点が本当に多いと思います。私は、まだまだ不十分で勉強不足ですけども、わずかなこの期間にこういうことを調べていく中で、果たしてこれで、すぐにきょうのあすというわけにいかないにしても、今から系統的にこういう問題は取り組んでいかないと、一長一短にずっと行くような問題ではないわけですから、そこに腰を据えて、邑楽町としても今後の障害者の教育について本腰を入れてやっぱり考えていかなければならない、こういう問題だというふうに思うわけですが、その辺のところの町長の考え方をもう一度お聞かせいただければと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 障害児者への支援ということについて、具体的に議員のほうからNPO法人の例も出されました。なのはな園ですね。それから、風の子保育園で予定している子供デイサービスの計画も示されましたけれども、私は公の機関で対処すべきということは十分できるわけではありますが、実は町のほうでも、先ほど議員から示されました邑楽町における障害者の福祉計画がございますが、その計画策定の趣旨、ねらいということをもとめて、基本理念として掲げているところでは、その基本理念を「ともに支え合う町づくり」の実現を目指して、サービスの確保と提供、基盤の整備、障害者の就業支援の強化などに関する計画的な取り組みについて明らかにするということが基本理念として掲げられております。その一つの中に、基盤の整備ということがただいまご質問ありましたが、私は公の機関でもそのようなことは当然考えていかなければならない部分もあろうかと思

ますが、先ほど民間の例も出されましたが、ともに障害者に対する、障害児に対する理解を深めていく中で、ともに進んでいくということも選択肢の一つではないかなと、こんなふうに思っております。

以前に比較してという大変失礼なことになるかもしれませんが、障害者の皆さんへの、障害児への皆さんへの思いということは、多くの町民の方も理解を示しておられますし、ともに支え合うということについての共通理解、まだまだ不十分であります。行政としても力を入れて進んでいかなければならないことだというふうに思っておりますので、その理解についても、私は以前よりも申し上げたのは、相当理解を示していただいているのではないかと、より以上努めていかなければならないわけですが、そのような考え方で今後進めていきたいと、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 今町長の言われた、町としてもそういう一つの目的、基盤整備ということでやっていくのだと、そういう方針を持っているということは、確かにこの邑楽町の第五次総合計画、この後期基本計画の中にも障害者福祉の問題についてはそれらがる記されておることは、私も見て承知をしております。

ただ、こういう基本理念というのは、これはどなたでも書けるわけです。しかし、それを実際にどう運営して、そこに予算をつけて、実践をしていくかということになった場合、それはただの理念とかなんとかというだけではなくて、そこに実際に弱者の立場でおられる人たちからすれば、例えば前回私町長にも申し上げました。私たちの、今は違いますけれども、当時所属をしていた厚生・環境常任委員会ではな園を視察いたしました。そのときに施設が、旧南保育園の老朽化をしているところを使っているわけですから、非常に見て設備も大変だったと、私は具体的にあのときにトイレの問題とか、保育園のトイレですから子供用の小さい、低い、それから水道もそうです。水道もすごく低いところにあります。そういうところを、これは場所を町として提供していることは私も評価するところですけども、そこを実際に使われているのはな園の子供たちからすれば、小学生の低学年から上は17歳、18歳ですか、中学生、高校生もおられる。そうすると、障害者と言ってもその男女共用のトイレを立派な青年、女性が一つのところを使っているという点は、どう考えてもそのところは、やっぱり何かやってあげないとしようがないのではないかなという思いで帰ってきたわけです。床なんかも、もうぼこぼこしているわけですから。ですから、私はあのときに町長にも言いました。1度行って見てくださいと、あの場所行って。見に行ったのかもわからない、それはその後行ったのかもわからないです。だけれども、1回見に行ってくださいということ私を私は言いました。ああいう実情が、あのときに私は発言をして、その後私も何回かなのはな園にも行っているのですけれども、一向に直っていないのです。そのままなのです。あのときにも向こうの責任者から言われたのですけれども、去年のこの暑さの中で、子供が暑さのために鼻血も出

したりするというような話も聞いたわけで、そのときに邑楽町では小中学校の校舎、それから幼稚園ですか、各教室にエアコンを入れるという話も、伺ったときに、こういうところにもやはりエアコンの設置なんかも本当はやってほしいというようなことも申し上げました。その後、それはどういうふうになったのかまだ伺っておりませんが、そういう中で、実際に福祉ということをお口にしますけれども、こういう実態を見ると、実際には行動に移されていないわけです。もし理由があるのであれば、それを言っていただきたいと思いますのですが、このこと一つとっても、私はやはり理念や何かの言葉だけではなくて、実際にそれがどう行動に移ったか、移されたか、できなければ、こういう理由でできなかったのだと、あとどのくらい待つとか、そういう具体的な話をしていただければ、そこを利用している子供たち、あるいはお父さん、お母さんも、それだったらもう少し待とうかとかと、やっぱり納得がいくと思うのです。そういう点がちょっと一方通行なのです。その辺、町長としては。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 基本的な考え方をもとにしての実践に向けて、それがなされていないではないかというようなご指摘でありますけれども、具体的になのはな園の施設の問題が提起をされました。私も、この施設には就任以来数度お邪魔して、園長先生、代表者の方ですね、それから保護者の方ともいろいろ意見を交換させていただいた経緯もあります。

当初私が就任をする前は、南保育園の施設は解体をするというような考えがあったようです。しかし、私は使えるものであれば使うことが得策だということで、実は就任をさせていただいて、今なのはな園ともう一つ、鞍掛の児童の厚生施設で利用させていただいているわけではありますが、何せ建築が、たしか昭和40年ごろだったと思います。ちょっと記憶ですので、間違っていたら失礼をいたしますが、もう大変長い期間経過をしているわけでもありますので、そういうことを考えますと大変老朽化をして、そして障害者の方々が利用するには、保育園ということでの建築になっておりますので、使い勝手が悪いということは十分承知をしております。それをその後3月以降、整備については特に手をかけていないと思います。しかし、先ほどのエアコンの整備については、これは担当する職員のほうで、たしか中古のエアコンだったと思いますが、その整備をさせていただいたと思いますので、後ほど確認をしたいと思いますが、そのように記憶をしております。

随時そういう形で整備といいますか、補足をしておりますが、いかんせん大変この使用目的が違ふこととあわせて老朽化ということがありますので、担当のほうからは、その契約も1年の契約ということになっておりまして、できれば危険ということも加味して使用を禁止したいと、停止したいというような話もありますが、しかし危険性のない範囲で利用していただくということで現在使っておりますので、大変使い勝手が悪い部分については申しわけなく思っているわけですが、その修理、修繕がなかなか進まないという一つの理由は、これはそのような考え方が

ら進んでいないということがありますので、責任者の方には、その部分については理解をしていただいておりますが、しかし利用している保護者の方から見れば、議員が指摘されますような状況も十分私も理解をしておりますので、今後どのような形でということの具体的なことは申し上げられませんが、支援をするということについては、そのとおりでもありますので、十分研究をさせていただきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 町長、歯切れが悪い。理由にならないよ、それは。もう古いしあれだと、もし古くて必要でないとなれば、そここのところをどうしたらいいかと行政として考えなくてはならないと思っております。その後は後で、確かにわかりますよ、危険なのだから。もし何かあった場合には大変だということがわかるだけに。だけれども、前回の私の話の中でも言いましたように、1年契約、1年ごとの契約。あそこにいる人たちは、自分たちがもしここを出されたらどうしようかと、行く場がないということで悩んでいるわけですから。だとすれば、一応町として契約を結んでやった以上、そこを立ち退いてもらうためには、その後のフォローを考えていかなくてはならない、これが私は行政としてのやらなければならないことではないかと思っております。

一つは、民間に委託をしているという点は、本来公的にやらなくてはいけないと私は思っているのですが、やっぱりそれもいろんな理由があるのはわかりますから、経済的な財政事情もあるでしょう、後で私財政的な問題ちょっと触れますけれども。ただ、それだからといって、そこを使っている人たちをほっぽり出すわけにはいかないわけですから。だからあれですよ、1年契約をやっている中で、前回の町長の答弁は非常に喜んでいましたよ、使えるだけ使っていただきたいという答弁をいただきましたから。その人たちは、非常にひとまず安心を今しております。ただ、今私が言ったのは、トイレの問題にしても水道の問題にしても床の問題にしても、これは早急にやらなければならない問題だと思うのです。ただ古いからとか、今先ほど言ったことで、それで納得しろといっても、なかなかそれはちょっと私なんかはわかりません。それは答弁ではないと思っております。ですから、そういうことをやっぱり考えていく、当然それはお金はかかるのです。お金かかります。そこをやりくりしてもら以外にないと思うのです。例えば私は、今何か言えばお金がないから、予算がないからという話になるわけです、これは。確かにお金かかりますから。ところが、これはいろんな考え方があると思っております。私は財調という考え方、財政調整基金、いわゆるこれ町の貯金なわけですがけれども、07年に11億8,000万円財調がありました。翌年の08年には13億2,000万円になりました。そして、今年度はまだ正式な数字は出ていないらしいですけれども、関係している職員からお話を聞きましたところ、多分ことは15億8,000万円ぐらいになるのではないかなと、それは正式な数字で私もらっていませんから、話の中ですから。でも、担当しているところの職員の話によると、そういう話を実は数日前にお伺いいたしました。15億8,000万円、だんだんお金ふえているのです。貯金がふえているのです。その貯金をふやすということは、どの家庭でもそうですけ

れども、必要最小限の、やっぱりある程度何かあった場合には必要だというお金は、これは必要だと思います。しかし、やるべきことをやらなければお金はたまりますから。だから、やるべきことは、どうしてもその優先順位があります、優先順位が。だけれども、一番今ここにこうやって困っている人がいる場合は、やはりそこに先に手を延ばして光を当ててやる、これが先ほども言いましたように一番弱い立場に光を当てる、この行政を行うことが本当に福祉ということと言える資格のある町になると思います。だから、そこのところを今ただ言葉だけのあれではなくて、実際に行動に移す、これが必要ですし、もしそのプロセスの中ですぐできなければできないなりの、これこれこういう理由で今はできませんけれども、ではあと何カ月後、何年後かにはこういう青写真が描けますとか、そういうような展望のある話をやっぱり町長にはしてもらいたいのです、私は。

話はいろいろあれですけども、いわゆる今まで私は小中高生、こういう話をしてきました。実はこれからが一番肝心の話になってくるのです。なぜかといえば、そういう小中高生は何らかの形でこういう学級なり学校なり、そういう施設があって何とか、それも自分の好きなところに行けるとかではなくて、受け皿が非常に限られた中ですから、大変な思いをして探していくのですが、その後です。今法律が変わって、例えばなのはな園というようないわゆる施設では、前は18歳までだったのです、措置が。ところが、今度は20歳までということになりました。しかし、現実には20歳まで置けますよと言ったって、その施設のなのはな園自体がそういう受け入れ態勢になっていないというわけです。というのは、今までは各学校に行っているわけでしょう、放課後来るでしょう、放課後の居場所がなのはな園なわけです。だけれども、今度はその学校に行っていない子供は朝から行く場所がないわけですから、その朝から行く、そういうような体制がその施設でとられているかということ、そうではないわけです。だから、一番保護者の方が心配しているのは、いわゆるそういった小中高の後の問題、子供たちの居場所、そういう居場所がはっきり言ってないのです。これは、非常に深刻な問題です。ここをどうするかということが、実は自治体の一番頭を痛めるところでもありますし、また考えなくてはならないところだと思います。

前にもお話の中で、邑楽町でいくと今の福祉センターのところに作業所があります。ああいう場所が、あそこも非常に限られた定数の中で、何人も受け入れるというふうにはなっておりません。そういう子供たちも、さっき言ったようにいろいろ障害の幅がありまして、そういうところで働ける子供もいれば、はっきり言って本当に手だけちょっと動かすぐらいのことしかできない子供もいれば、いろいろあります。しかし、この町に生まれて、この場所で生涯を終えたい、こういう人間としての基本的な尊厳といいますか、そういうことをやはり考えていくのが本当の福祉のあるべき姿ではないかなというふうに思います。

町長、今町長の中のスタッフというか、職員の中にも、私は聞いて、ああ、すばらしい考え方を持っているなという人もいます。例えば邑楽町でいくと、今邑楽町で所有している保有地がありますね、いろんなところにあります。そういう場所をやはり確保して、そしてそういう福祉施設

の、いわゆる複合施設というのですか、そういうものを何か大きなところに1カ所に集めて機能的な使い勝手のよい、そういう施設を本当はできればいいのだけれどもねという人の話も、私は実は間接的ながら伺っております。それには、相当な費用もかかります。しかし、国のいろいろな補助金とか、そういう制度も大いに使っていただいて、そしてそういうものが一つ邑楽町にできれば、これはすばらしい福祉の町として大いに近隣にも誇れる町になっていくのではないかなという気が私はするわけですけれども、町長からすれば夢のような話かもしれませんけれども、そういった考え方に対して、町長はどのようにお考えになっておられますか、お聞かせください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私の答弁が歯切れが悪いということのご指摘ですが、ご容赦いただきたいと思いますが、先ほど研究をさせていただくという一つには、実は先ほども少子化の時代を迎えているということを考え合わせたときに、将来的には学校等の空き教室等も出てくるのではないかとということ考え合わせた場合に、既に中野小学校のところに旧役場庁舎の北側であります、低学年棟もあるわけでありまして、具体的に言ってどうかということもありますが、実現ができればということなかなか申し上げられませんが、そういった施設を利用するのも一つの考え方ではないかということで研究をさせていただくということで申し上げたわけでございますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

さて、18歳から20歳ということの要件が制度上変わってきました。その場合に、高等学校を卒業した、いわゆる18歳から20歳までの方々をどう対応するかということですが、議員がご指摘をされましたように、非常に朝から一日をどこで過ごすかということがあるわけでありまして、幸いにして町においては地域活動支援センターということで、作業所ということのお話がありました、そこでも対応いたしておりますし、近隣でもそういった形での作業を行っているところもあるわけですので、そういった状況が一日も早くできればと、そんなふうに思っております。

先ほど県立館林高等特別支援学校のお話もさせていただきましたが、学校では2つの授業料があるということで、1つは普通科、そして1つはサービス総合科ということがあるようでありまして、そのサービス総合科においては障害児者の持っている特性に応じての作業ですとか、あるいは実際の仕事を想定した実習等も行っているというような状況もありますので、そういった面を考慮した中で、一日も早く自立をした生活が営めるような考え方が、私は議員がおっしゃるとおりに必要だと思っておりますので、そのような考え方で仕事を進めていきたいと思っております。ただ、夢だろうということもありましたが、一日も早くそういった施設が、皆さんの協力をいただかねばなりません、理解をいただく中で実現に向けて努力をしていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 私は、この問題はこれからも引き続いて取り上げていきたいと思っております。

す。今置かれている障害者の本人、もちろん家族も含めて、こういった切実な声を真摯に受けとめて、ぜひ実現をするために、まず隗より一步ではありませんが、一步足を踏み出していただきたい、このことをひとつお願いをしておきたいと思います。

最後に、この問題についてのあれは、この障害者の問題については各施設とも町内の人だけではありません。館林市、あるいは近隣の千代田町とか明和町とかというところからもお子さんがおります。私は、これも前回申し上げましたけれども、邑楽町だけの問題で抱えるのではなくて、その近郷近在で本来やるべきところのことを邑楽町に頼っているわけですから、そのところはそこにも責任を持ってもらう、こういう立場から、やはりいろんな機会を通じて、特別にそういう機会持ってもいいと思います。例えば具体的に言いますと、桐生市とか遠くの養護学校があります。そういうところなんかの送迎とか、そういうのを場合によっては父兄がみずからそれをやっているとかという話も聞くのです。そうだとするならば、やっぱりそういう近隣の人の知恵を絞って、例えばその専用の送迎用のバスを1台買うとか、何かそういうことだってお互いの出費をお互い分割して出し合うようにすれば、一つの自分の町だけで負担するわけではないわけですから、そういうことなんかも含めて、そのほかにもそういう話し合いをぜひ邑楽町から発信をしていただいて、どんどん話を進めていく必要があると思います。ですから、それをぜひ積極的に進めていくように要望しておきます。

一応時間がもう25分しかありません。非常にこの問題についてもまだまだ不十分な討論というか、主張になってしまいましたけれども、引き続いてこれはまたやるということで、次の質問に移りたいと思います。

次は、通告に載っていますのが、行政区の統廃合についてということで私は質問の通告をしました。この行政区、この役割というのをまずちょっと考えてみたいと思いますが、これは町執行部にとっても非常に重要な問題です。町の行政、いわゆる執行していく中で、行政区の果たす役割というのは非常に大きなものがあると思います。そこには、区長を初めとして各役員の並々ならぬご協力と努力があつてこそ、これが成り立っていると。日本の社会というのは、言うなればほかの国とはちょっと違うのではないかと思うのですが、よく向こう三軒両隣という言葉があります、日本には。それから、遠くの親戚より近くの他人とかという言葉もあります。こういういわゆる人間同士の結びつきというのですか、そういうものが果たす役割というのは、これは非常に長い歴史の中で培われたものでありまして、そこには当然精神的な支柱として日本人の宗教観というのですか、そういうものもあると思います。仏教とか、日本人というのは儒教の影響というののがかなり強い国ですから、そういうものも当然あろうかと思えます。

先ほど来話をしましたけれども、今東北の大震災で置かれているあの悲惨な状況、これに対して国、政府が遅々として、もう被災者の人たちからすれば一体何をやっているのだと、そういう思いを物すごく持っているわけですが、ほかの国が今びっくりしているのは、日本はあれだけの

大きな被災を受けた人たちが、普通だったらとっくに暴動を起こしているのではないかと、けれども日本人というのは、そういう点よく我慢をして、それで復興に向けて頑張っている姿を見てびっくりしているらしいです。国やあれがそういう中でも、一番多いときは30万人からのボランティアの人たちが行って、いろんなことやっていたわけです。今も相当な数のボランティアの人が行っていると思いますけれども、そういう中でやられている日本人气質というのですか、これは外国の人もびっくりしているという話を過日テレビか何かでちょっと聞いたのですけれども、見たのですけれども、そういう点からしても、やはり行政区、今邑楽町は34の行政区があります。私は、何でこの問題を取り上げたかという、一つには今役員のなり手が非常にいないのです。いわゆる区長です、まず。実は、私の谷中蛭沼11区でも区長の不在ができて、それで過日の3月、役場のほうには何月何日までに決めてくださいよ、決まった人出してくださいよということがあるものですから、その日にちに向けて私も地元の議員ということで選考委員になっていまして、連日役員探しをするのに大変な苦勞をしました。幸いにも区長を受けてくれる方がおりまして、今は非常にその区長を中心にして役員の皆さんが頑張っておられます。そういう中で、では谷中蛭沼11区だけかなと思ったら、そうではないのです。もうあっちこっちでなかなか決まらなくてという話を聞きました。そして、過去には何か月間か、名前は出しませんけれども、区長が不在だったという話も伺っております。それから代理区長が、期限を決めて1人の方が3カ月区長の役割をやって、その次は次の方がやるとかという話も聞いております。そういった中で、役員のなり手がいないということが、これは34区ある中で相当な数あるのではないかなという気が私はしております。

それから、いわゆる各町のイベントがあります。町民体育祭、あるいは邑楽町のお祭り、おうら祭り、そのほかにもいろいろ各種ありますが、こういうところに参加をする場合に、例えば運動会で言えば選手がなかなか見つからないとか、そういう問題も、私のはるか昔に体協の役員をやっていたときも、比較的私なんかのところは大きな区です。それでもなおかつなかなか見つからなかった経験があるのですが、小さいところなんかは物すごく大変です。だから、運動会を見に行くと、リレーなんかでもその学年の子供がいないと、もうはるかちっちゃい子を出して、それで前のほうにちょっとハンディをつけて走らせるというのは日常茶飯事ですよね、今の運動会見えていますと。そういう問題。あるいはおうら祭り、何にしても、運動会にしてもかかるお金は同じです、どこの小さいところであろうと大きなところであろうと。そういう点での、やっぱりお金の問題。それから、世帯数のアンバランス、大きいところは1,050世帯近くございます。少ないところは50あるかないか、こういうアンバランスがあります。それから、これは各区の裁量によるのですが、私が言うべきことではないかと思いますが、区費、その区で集めている区費、これを資料として出していたら、実にこれ平均でいきますと4,675円、単純平均です、これは。一番高いところでは、ある区では1万円です。一番安いところで2,000円、いろいろずらずらと出ております。一番大体多い額が4,000円という額です。ちなみに、私たちの谷中蛭沼11区は前期、後期合わ

せて2,000円ずつですから4,000円で、ちょうどこの中間かな、そんなふう思うわけですが、そういう区費のアンバランスも出てきております。

それから、こういう非常に大きなところと小さいところが混在しているわけですから、いろんな面についての、行政面での運営の効率化から考えてみてどうなのかなというような面もあろうかと思えます。私は、この行政区の統廃合ということは、非常にこれは言うはやすし行うはがたしで、いざやろうとなると大変な問題を抱えてくると思えます。例えば統廃合といっても、私は今あるところの区を分割してどこかへくっつけようとか、こういうことは今の時点では無理だと思えます。

私の住んでいるところですから言いますけれども、谷中蛭沼というところで11区は構成されております。ところが、篠塚という駅の東武線の南側に何戸か、わずか数戸なのですが、そこに点在をしているご家庭は、実は谷中蛭沼ではなくて住谷崎、石打1番地というのですが、住谷崎に属しております。こういうところが、やっぱり邑楽町を探せば相当あるのではないかという気がいたします。こういうところを、では簡単だからこっちへくっつけて、蛭沼から田んぼ一つ越えて谷中だから、住谷崎も少ないし谷中も少ない、あそこを一つにすれば適正な規模になるのではないかと、以前は私もそういうこと考えたことありますが、いざやろうとすると、これはなかなか難しいのです。その一つには、ただ単に人数合わせでやるというのができない、これは人間の感情というか、そこに生まれ育って何十年もいて、人間とのおつき合いというのはそういうことになっていますから、それをぱさっと切ってしまうわけにはいかない。その背景には、一つは神事、いわゆる神様、何々神社とかいろいろあります。こういうものが非常にかかわってきます。そうすると、簡単にそういうわけにはいかない。ですから、これはこれからの問題として、今あるところの区長会の皆さんともいろいろ議論を重ねていく中で、行政区の皆さんたちの意見を最大限尊重しながら、しかしただ単に行政区、いわゆる区長会に投げるのではなくて、町としても一定の考え方というのを私は持つ必要があるのではないかというふうに思うわけですが、この点について町長の見解を伺いたいと思えます。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 行政区の将来的な再編ということのお尋ねですが、議員のほうからもありましたように、邑楽町34の行政区から成っております、その行政区の世帯数、それぞれでありまして、多くは1,040戸、少なくは54戸というような大きな世帯数の開きもあるわけでありまして、そういうことを考えたときに、役所として各行政区の役員を中心としてお世話になっている部分というのは大きなものがありまして、その役割というのは大変お骨折りをいただいておりますし、行政事務を執行する上では大変ありがたく思っているところでもございます。したがって、今後も各行政区の区長を中心とした皆さん方にご協力をいただいて、行政事務を実行していかなければならないということは、これからもお願いをしたいと思うわけでもあります。

そこで、いろんな問題があるということのご指摘でもあります。それぞれの問題の解決に向けては、今後それぞれの各行政区の実情等もあるわけですので、そういった課題を協議していただく中で、早いうちの再編ということが必要かと思いますが、しかし議員からも提案がありましたけれども、やはりこの再編をしていくということについては、まさに地域の事情、地域の実情ということを十分出していただいて、それを理解していただくということでありませんと、なかなか前へ進まない、まさに地域の実情を最大限にくみ取った中での再編ということが将来的には求められてくるのかなと。

そこで、その問題を行政としても、町としても行政区の区長にお願いするだけでなく、考えていただくだけでなく、町としても当然真剣に取り組むべきではないかということでもあります。過去にもこの問題については問題が提起された状況もあります。毎月定例の区長会等もあるわけですので、このようなご意見、ご質問があったというようなことも私のほうからお話をさせていただいて、まずはそこから進んでいくのかなと、そんなふうに思っておりますので、定例会の席上の中で、その平準化した組織再編が可能かどうかということも含めて、十分協議をしていただくという場を区長のほうにもお願いをしたいと思います。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 この統廃合については、今町長も言われたとおり、大変難しい問題も含まれているわけですので、今言われたような形で区長会のほうにも問題を投げかけていただいて、ぜひ区長会の考え方としてどうなのかというようなことを聞いていただいて、その結果をぜひ議会にも反映をさせていただきたい、そのように思います。

時間もまだ8分ですが、この問題については今後の推移を見ながら、また改めて問題を取り上げていきたいというふうに考えております。私の質問はこれで終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

○立沢稔夫議長 暫時休憩をいたします。

[午前11時23分 休憩]

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

[午前11時35分 再開]

◇ 坂井孝次議員

○立沢稔夫議長 7番、坂井孝次議員。

[7番 坂井孝次議員登壇]

○7番 坂井孝次議員 7番、坂井孝次です。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

きょうは、こうして議会で質問させていただく機会をいただきましたが、私は初めてのとき皆さ

んの前で話をするときには、いつも一つをお願いしております。と言いますのは、私は新潟県の三条市で生まれまして、あちらのほうの方言なのですけれども、「い」と「え」の区別には自信がありません。例えば減塩、原因、それからイチゴ、越後、気をつけていかなないとなかなか話がうまくいかないのですけれども、こればかり気をつけていると話がうまくできませんので、済みません、皆さん、文脈の中で、話の中でこれはおかしいと思われたら、ひとつ「い」と「え」が間違っただけというような形でご理解をいただきたいと思います。

私は、呂楽町に住みまして四十数年になります。余り町に住みまして不自由を感じてきませんでした。それは、町の皆さんが住民に対して手厚い対応をしていただいたのだというふうに私は考えております。同じように考えている人も、何人かはおられると思います。しかし、現在は経済環境の悪化などから、呂楽町近郊の市町村では、協業、協働という形で取り組もうという方針で、講演会とか研究会をやっております。協業とか協働というのは何かといいますと、町だけではもうやれないよと、皆さんと一緒にやりましようということで考えればよいと思いますが、そういう形が進んでおります。

そんな中で、私は呂楽町の将来像が「やさしさと活気の調和したまちおうら」という言葉に代表されていることを知りました。私は、この長期ビジョン、または長期計画に関する情報公開について質問させていただきたいと思います。ただ、私が情報公開というその情報というのは、一般的に使われております情報公開条例、これとは内容を異にします。簡単に言えば、呂楽町が長期にわたってこれから事業を行う場合に、どういうふうな情報を出すかということで、単なるお知らせというふうに考えてもらったほうがわかりやすいと思いますが、そういう観点で私は質問させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に企画課長に質問いたします。町の長期ビジョンや長期構想についてどのような情報公開が行われておりますか、よろしくお願いいたします。

○立沢稔夫議長 小倉企画課長。

〔小倉章利企画課長登壇〕

○小倉章利企画課長 お答え申し上げます。

ご指摘の長期ビジョンでございますが、ことし3月に策定いたしました呂楽町第五次総合計画の後期基本計画が上げられます。これは、町の行政運営に係る総合的、基本的、長期的な計画です。この後期基本計画では、町づくりは住民、地域、行政による対話と協働の町づくりを推進していくことから、広く町民の皆さんに知っていただきたいというふうに思っております。現在後期基本計画の公開につきましては、町ホームページに全文を掲載しまして、役場、3公民館、図書館等で閲覧できるように手配しているところでございます。

以上です。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 それでは、この資料が閲覧できるということなのですが、閲覧状況というようなものは把握されておりますでしょうか。

○立沢稔夫議長 小倉企画課長。

〔小倉章利企画課長登壇〕

○小倉章利企画課長 お答え申し上げます。

町のホームページ、図書館等の閲覧件数につきましては、そのシステム上カウントができないということで、どれだけの方に見ていただいたかは把握しておりません。

以上です。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 把握はできないということなのですが、多くの人にこういう長期計画というのを見る機会は与えられているのですけれども、やっぱりなかなかこれでは見る人がいないというふうに思います。そうすると、言葉で代表されるように「やさしさと活気の調和したまちおうら」を意識されていても、なかなか目標には近づかないような気がしますが、どのように思われますか。

○立沢稔夫議長 小倉企画課長。

〔小倉章利企画課長登壇〕

○小倉章利企画課長 お答え申し上げます。

私たち職員の日々の仕事が、後期基本計画の実践となるわけでございます。計画の中でうたっております協働の町づくりといった視点で見た場合には、町民の皆さんに知っていただくという部分は重要な意味があるというふうに思います。宣伝ということで考えますと、不足しているように思います。宣伝ということの中で、今後いろいろ検討していきたいというふうに思っています。よろしくをお願いします。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 私この資料を見せてもらいましたけれども、総合的な観点からまとめられておりますので、非常にたくさんの方が書いてあります。そうしますと、一般的に第五次総合計画後期基本計画ということで基本計画なのですが、ここに上がっているものは5年以内に全部やられるのだというふうな誤解も生じるような気がします。できるだけこういう町の大きな事業、そういうものについては、5カ年計画のこれが目玉だというものをやっぱり出したほうが、もっと町の人たちは、ああ、なるほど、それができるのか、それだったらいいな、それだったらあの町へ行ってみようという形になってくるのではないかと思います。今だんだん人口減の傾向にありますけれども、やはり町はそういう形でたくさんの方を持っているわけですから、全部何も出すことはないと思います。一つでもいいから、いいものをこれとこれが目玉ですと、こういう形で出したほうがいいと思いますけれども、その辺を考えていただければ助かります。ひとつこれは参考までです。

提案という形で、ぜひそういう形で全部を網羅するのではなくて、1つ、2つを目玉にして出していただければと思います。

では、次の質問に移ります。また企画課長をお願いします。長期ビジョン、情報公開に関する規制、そういうものは何かありますか。それから、あるとすればどんな項目がありますか。

○立沢稔夫議長 小倉企画課長。

〔小倉章利企画課長登壇〕

○小倉章利企画課長 お答えいたします。

総合計画の策定につきましては、特定の事業につきまして公開を差し控えるといった取り決めは全くございません。しかし、基本計画としての性格上、具体的な実施量や実施時期については記載していないのが実態でございます。

以上です。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 今基本計画として、性格上その情報開示はしていないということなのですが、私は具体的な実施量と、それとか実施時期というものが記載されていないのはなぜかということに疑問に感じます。その辺はどうなのでしょう、よろしく願いいたします。

○立沢稔夫議長 小倉企画課長。

〔小倉章利企画課長登壇〕

○小倉章利企画課長 お答え申し上げます。

後期基本計画につきましては、すべての計画について包み隠さず掲載しているというところがございますが、しかし町の行政運営に係る総合的、基本的、長期的な計画としての位置づけがあります。また、経済環境や社会の変化、さらには国、県の状況の変化等もございます。そのため、具体的な実施量や実施時期については記載されないようになってございます。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 言葉じりをとるようで申しわけありませんが、包み隠さず出しているということなのですが、私は計画というようなものは、やはりいつまでに達成するというのがないと、これは計画ではないと思っている人間ですから、そういう点でないというのは、何か規制があるのかなというふうに考えて質問をしました。

私は、いつもそう思うのですけれども、何を、いつまでに、どれくらいというのは、計画には絶対必要だと思います。そうしないと、いつまでにながかったら、いつまでもできないということになりますから、これは単なる思いつきというふうにとられても仕方ありません。そういうことで、できることならばたくさんの情報を開示していただいて、そういうことがどんどんわかってくれば、ああ、なるほどということが言えると思います。例えば国道354号線、このバイパス工事、かなり

以前からやられておりました。これは見ていると、いつごろ開通するのかなという感じがわかりますが、いつだろうかと、なかなかそれはわからないと、そういうことでは町の人たちは、ほとんどそういう考えを持たれていると思います。ですから、ぜひそういういつまでにというものをつけていただきたい。そうすることによって、今度はこういうふうにやりますよと言っておいて結果が出たときに、何月までにできる、できないというのがはっきりしているわけですから、この事業は失敗だとか成功だとか、町の人たちが判断できます。そうすることがやっぱり必要ではないでしょうか。広く考えれば、これは業務監査ということにつながると思います。計画立案をする立場の人には、非常にリスクが生まれると思いますけれども、町が元気になるために策定されたものであれば、余りリスクを恐れずに、どんどんこういう形の情報を提供してもらいたいと思います。リスクを負ってやれば、町の人たちも期待と信頼がどんどん町に寄ってくると思います。こういうテーマが出たら、私もそういうふうにと考えると、ぜひその事業に意見を聞いてもらいたいというふうに、町民のほうから進んでこちらへ来ると思います。それが調和につながるとは思います。どう考えられますか。

○立沢稔夫議長 小倉企画課長。

〔小倉章利企画課長登壇〕

○小倉章利企画課長 お答え申し上げます。

町民の皆さんの知りたい情報をお知らせするという事は、行政にとって非常に重要なことだというふうに思います。ただ、総合計画の中でそれを網羅できるかどうかという部分では、その性格上非常に難しい部分もございます。総合計画を離れた形の中も含めて、ご指摘の情報について行政の中の事業内容によっては大きな違いがございますが、今後業務の進行管理やそういったことを含めながら研究や検討をしていきたいと思いますが、よろしくご理解賜りたいと思います。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 検討するという回答をいただきましたけれども、国会等の答弁を聞いていると、検討するというのはしないということにも私は今まで理解してきましたので、やらないのだと思っているわけではありませんが、町のことですので、ぜひそういう考えで進行していただきたいと思います。

それから、私は可能な限りそういう情報を出して、ああ、邑楽町にはこんな夢のある事業があるのだということを率先して出していただきたいと、そういうふうに思います。そうすることによって、町言葉にあるように活性化が生まれてくるというふうに思います。そういうことで、近いうちに協働の名のもとで行政と民間の町づくりが始まることを私は楽しみにしていますから、ひとつよろしくお願いをしたいと思います。

では、次の質問に移ります。次からは、町長に質問いたします。情報公開について、これですね、この情報公開、これだけで結構ですから。それについて、自己評価されると何点くらいになります

か。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この10カ年計画の後期5カ年についての作成についての自己評価ということでお尋ねですが、邑楽町、過去第五次まで実施してまいりました。その中身をいろいろその計画に基づいて実施をしてきたということを考え、特に今回の第五次総合計画の後期5カ年計画については、町民の皆さんのいろいろなご意見を伺い、そして座談会、こども議会等を通してのご意見等を十分考えた上での、そしてまた前期計画を踏襲、積み残した部分についての事業ということを考えますと、私は点数ということですから、あえて甘い点数かもしれませんが、85点から90点というふうに思っ
てよろしいのではないかと。その理由は、そういった経緯を踏まえて職員が策定委員という形で真剣に取り組んできたということの考え方でありまして、そういう点では、私は職員一丸となってこの計画を町民の皆さんのためのサービス提供のために実施していくという考えから、そのような点数をつけさせていただきました。

なお、不足する点については私の指導不足とあわせて、それらについての責任の問題もあると思
いますが、そういう観点から85点あるいは90点というようなことをあえてつけさせていただきました。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 ありがとうございます。私は、今聞いた中で満点にいかないのは、私の責
任だというふうにも聞きまして、実は安心しているのですけれども、立場が高くなりますと、そう
いう責任追及も非常に厳しくなってくると思います。ともすれば、自分の正当性を主張する余り、
議会とか庁舎とか、いろいろの件でぎくしゃくするのがあると思いますけれども、町長にはあえて
自分がその問題の中に飛び込んで、みずから飛び込んで問題を解決するというような形をぜひやっ
ていただきたいと思います。残念なことに、時々私は邑楽町はどうなっているのだということを知
ります。うまくいかないのは、1つには、町長とは言いません、トップの責任があると思います。
そういう形で、ぜひそういう考えの中で、自分から、みずから問題の中に入って解決するという心
構えで取り組んでいただければと思います。

それから、次の質問に移ります。長期ビジョンについては私も先ほど言いましたけれども、いつ
までと時期を明確にすべきと考えておりますけれども、その辺のお考えはいかがでしょう。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 第五次の総合計画についての長期ビジョンは、平成18年から最終年を平成27年の
10カ年ということで計画をしております。ことしが、平成23年が後期5カ年に入るわけでもありま
して、そういう点では長期ビジョンについての目標設定があるわけでありまして、その「や

さしさと活気の調和したまちおうら」の実現に向けて、この計画の策定されたものを基本に実施をしていく、事業計画を進めていくと、こんなふうに思っています。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 これは、時期を言うのはなかなか難しいという形でしょうかね。でも、ここではそういう形でも、回答で私は受け取りますけれども、こういう計画というものは、何回も言いますけれども、やっぱり完成するという日にちが決まっていなければ、本当にだれが、いつ、何をやるのだというのがわからないと思います。それは、民間ではそういうことは通りません。だから、そういう点を、これは行政の難しさはそこにあると思いますけれども、やはりここではそういう民間の考え方も入れて、長期目標というものであっても、日程ちゃんと入れる、いつまでどんなものになるかというようなことを、どうか情報開示をしていただきたいと思います。ひとつよろしくお願いします。

次の質問になりますけれども、町民の多くは町の将来に関心を寄せていると思います。そのためには、基本的な目標、進行状況、これは難しいのかもしれませんが、一目でわかるような資料作成が必要だと思いますけれども、その辺はいかがでしょうか。町の人たちに知っていただく上で、一目でわかるようなものを検討していただきたいと思いますということなのですが、よろしくお願いします。どんなお考えでしょう。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この振興計画については、5カ年計画の中で、その事業実施を3年という形での見直しをして、いわゆるローリングという言い方なのですが、見直しをし、実施をするということになっております。しかし、そのことが多く町民の方にわかりづらいという面もあるかと思えます。その進行状況を一目で町民の皆さんに理解をいただくというようなお尋ねであります。そのような状況が作り出していけるような環境も、今お伺いしてつくっていかなくてはならないのかなというふうに感じました。

町には、先ほどの障害者の福祉計画、あるいは都市計画ではマスタープラン、町営住宅等を設置する場合にはその基本計画等々、それぞれあるわけではありますが、そういった状況が今ご質問の中にありますように、一目でこの事業についてはこうだというようなことがわかるような状況については、今後研究を重ねていきたいと思えます。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 私は、基本的な目標、それから進行状況がわかるということによって何が期待できるかということです。そうすると、たくさんの方がその事業に対し興味を持ってくれると思います。そうすると、町の人たちはこれはどうなっているの、これはどうなのですかという問題、それからアイデア、たくさんあると思います。

こういう問題は、町づくりという観点からしたら、少数人数でやったっていいものはできないと思います。できないというのは言い過ぎですけども、できるのでしょうか、もっといいのができるということは、たくさんの人たちに集まっていただいて、こういう事業を計画しています、こういうことをやります、そういうことを提案した上で、皆さんの意見を寄せてくださいと、皆さんと一緒にやりましょうというステージを出せば、町は本当に元気になると思います。たくさんの方が、そういう形で事業に参加したいと思っています、私は。だから、そういう点からいくと、どうかこの辺のところは、そうそう難しいことではないと思うのです。だから、町が脚光を浴びるとか浴びないとかではなくて、こういういい言葉があるわけですから。「やさしさと活力の調和したまち」ということで、私はその言葉が、非常にこれはいいキャッチフレーズだと、でも一般的にキャッチフレーズがいいのは、そのうちどんどん忘れられていってしまうのです。だから、せっかくつくったものですから、3月につくられたばかりだということを聞きましたので、ホットなうちにそういう対応を矢継ぎ早にどんどんやっていただければいいと思います。それが、行政を担当する人たちが提案し、またそういう環境をつくっていく、町の人たちには参加してもらってありがたいと、みんなでこの事業に対してよかったねということで満足できるような、やっぱり仕組みが要ると思うのです。それがやはりこの執行部の皆さんでしようし、議員の皆さんもそうだと思いますし、町民の皆さんもぜひそうやってほしいというふうに願っていると思います。どうかそういう観点で、このキャッチフレーズを大事にして、新しくつくったばかりの、つくられたばかりの総合計画にもう少し心を入れて、ぜひみんなが、ああ、なるほど、この町はすばらしいな、いいなということ みんなが集まってくるような町にしたい、してもらいたい、しましようというふうな感じで、私は提案を含めてそういう形にさせていただきたいと思っています。

それから最後に、町長に質問します。今大体のことを町長にご回答いただきました。ご回答いただいたということは、やりますよということにつながるわけですけども、ところで秋には町長選挙があります。そうすると、今までの回答は次期町政も担当されるというふうに考えてよろしいのでしょうか、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 次期町政の担当についてのお尋ねでございます。

先ほどもこの総合10カ年計画、そして後期5カ年計画の完成に向けて、その目標が「やさしさと活気の調和したまちおうら」ということになっております。私は、町民の皆さんのご理解をいただき、引き続き町政を担当させていただきたいと思っております。

そして、邑楽町の第五次総合計画の目標である「やさしさと活気の調和したまちおうら」の実現を推進し、安心、安全に生活できる温かい町づくりを目指すことが私の使命であると思っております。その重責を十分自分のものとして進めていきたい、推進していく覚悟でございます。

○立沢稔夫議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 これからも町政を担当されるという心構えをいただきましたけれども、それにはいろいろな方々が提案され、回答されていきました中に、町長も任期が余りないと、その中にはやはり一生懸命に頑張っていたかないと、心が通じないと思います。どうか今の意気込みを、その短い期間の中でも、みんなでやるという心構えで、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。私は、町が元気になるのも、やはり町長、トップがそういう考えを一貫して持って取り組まなければいけないと思います。

私は、生意気なことを言うようですけども、問題点を理解するときに、町という単位ですとなかなかわかりが悪いです。理解しにくい面がたくさんあります。では、小さい自分の家だということになったときに、町長はおやじ、奥さんもおられます。子供もおられます。そういうことに対して、うちはこうやってきたのだけれどもと言われても、近所である家はおかしいと言われてたそれの責任かという、やっぱりおやじの責任です。だから、そういう形で、今度は少子化とかという問題が出てきますけれども、少子化というのは、町、そんなの別に問題なさそうだという感じにもとれますけれども、実は1軒の家にしてみると一人になってくる、私も実はいまひとり住まいですけども。そうすると、活気が全然出てきません。人数の減少というのは、町の活気が失われるということにつながります。そういう点で、本当に問題を把握しようとしたら、余り大きい町だとか、国だとか、そういう単位ではなくて、まず自分ということを考えていただければいいと思います。そういう形で、やっぱりこの町に住んだ者としてみれば、どうか気持ちの通じ合う、また活力のある、本当にこのテーマと同じような町づくりに進んでいくことを私は希望します。

私の質問を終わります。ありがとうございました。

○立沢稔夫議長 暫時休憩をいたします。

〔午後 零時12分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時15分 再開〕

◇ 小島幸典 議員

○立沢稔夫議長 12番、小島幸典議員。

〔12番 小島幸典議員登壇〕

○12番 小島幸典議員 皆さん、こんにちは。12番、小島幸典です。議員の責務により、通告どおり一般質問いたします。一般質問は、行政に対しての改善提案であり、町民の代弁者であります議員の大切な仕事です。

さて、3月11日の東日本大震災での被害地の方々と町内被害者の皆様に心よりお見舞い申し上げ

ます。今中央の政界では、国会ですね。菅直人首相の辞任時期をめぐり特例公債法案、復興構想会議提言など、赤字国債発行のための特例公債法案を提出、成立を望んでいると新聞報道されています。そんな中で、国の借金は現在約1,000兆円を超えていると言われていています。また、21年度県の借金は約1兆305億円と言われていています。邑楽町にあっては、21年度3月末で一般会計約57億6,800万円であり、また国では震災復興支援費用に約10兆円規模の支援を査定していると新聞紙上等では話されて、またラジオ等でも伝えられています。先行き大変な時代が来ることも予想されます。そんな国、県、町の経済状態の中で、議会また執行部、議会の支援して下さった町民等の研究、努力をしてよい町づくりのため、誠心誠意心を込めて質問します。よろしく願います。

また、町長の議員時代の約4年7カ月をともに切磋琢磨して今があると私は思い、町長にも感謝している次第であります。その中で、互いに間々意見が合わないこともありましたが、町民のことを最優先に考えた場合、私なりに人々の人権と普通の生活を大切にした場合、自分が損してでも信念を持って私なりに町政に協力してきたことと自負しています。その一例を挙げますと、町長が議員のときの議員辞職勧告にあっては反対しました。また、問責決議案も反対しました。そして、19号線補正予算には賛成討論もしました。そして、3年前の9月議会前に監査委員の問題があったときでも、私は渦中のクリを拾うごとく、私なりに9月の議会のことを考えて一生懸命役を引き受け、先日の選挙での任期ということで無事に役を果たせたことは、執行部初め各課長のおかげと思っています。

最近では、町長の町民に対して挙げた手のおろし場をつくったことと私は思います。それは、3月議会での町長と町民との約束に対して、だれかがその場を、手のおろし場をつくってやらなくてはならないかなと思うことで、私はいろいろ人に恨まれるかもしれませんが、だれかがやらなければならないことを私はやったつもりであります。その思いは、本人がどう解釈しようとする自由でありますけれども、きょうも執行部の皆様には耳の痛い言葉も間々あると思いますが、社会全体と町民が住んでよかったと思われるような町にできるよう前向きな質問をさせていただきますので、回答も歯切れのよい行動と、またきょうの日ではなくて、1年先、4年先、10年先、また50年先の人たちが、ああ、やっぱり先人はいい仕事してくれたのだなと思われるような仕事をお互いにしようではありませんか。そういうことで、一般質問に移らせていただきます。

初めに、通告は行っていると思いますけれども、さきの通告の中で教育委員と教育長について、これはきのうの議員が話されたこともありますけれども、私は私の視点の中で質問しますから、そういうことを酌んでお答えを願いたいと思います。

まずは、質問の中身ですけれども、この質問は前にも学校教育課長、また町長にも質問をしていますけれども、その中で私は教育委員の任命は公募してくださいよと、そういうお願い、提案をしてきましたけれども、その辺をもう一度、学校教育課長でも町長でもどっちでもいいですから、お答えを願いたい。それと、前の質問の中で、これ教育委員というのは独立機関だと、そういうこ

とでいろいろと議論をした経過の中で、1人委員が欠員に今なっていますけれども、この委員会の中で私は暫定的に選んだらどうですかと提案もしてあります。その辺の推移はどうなっているのか、教えてもらいたいと思います。お願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 教育委員の任命について公募ということのお尋ねですが、さきの議員のご質問にもお答えをしたかと思いますが、公募については考えておりません。

それから、教育委員会の中で現在欠員となっている委員、4人の中でということにつきましては、教育委員会の中での協議ということになりますので、回答は差し控えたいと思います。

○立沢稔夫議長 河内学校教育課長。

〔河内 登教育長職務代理者 学校教育課長登壇〕

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 先ほど議員のご質問の中で、現在の教育委員の中からというお話でございました。これにつきましては、以前の12月、昨年12月だったと思いますが、この一般質問の中でも質問をいただき、またこういう意見も伝えろというようなお話もございまして、委員会の中でお伝えをさせていただいたところでございます。

ただ、教育長の職につきましては、一般の教育委員が非常勤という職であるのと違って、この職の性格、また責任のあり方から、常に勤務を要する職というふうになっております。その職にある方は、常勤の一般職に属する地方公務員というふうな形で法律上も定められておるところでございます。したがって、今現在現職の委員さん方につきましては、ほかに職を持たれている方や、また健康上、そして家庭の都合という職を受けられる環境にないということで、今現在私が職務代理を仰せつかっているということであると理解をいたしております。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 この教育委員の問題について、今学校教育課長が話されたように、かなりの時間を割いて質問と回答を得ましたけれども、私が釈然としないのは、なぜでは教育委員の任命について、幾ら非常勤であろうが、議会で教育委員としての任務をお願いしてあるので、それでできないならば全部辞職したらいいと私は思うのです、職務を全うできないということであれば。でなければ互選の意味がないのではないですか。そういうことを含めて、やっぱり今は密室でものをやれるような時代ではないと思うのです。だからこそ、全国で11市町村かな、PTAの中からも出てきてくださいよというようにしてあります。そういうことを含めれば、なぜ私がきょう話をしたかと、質問したかといいますと、町長はあのときに、では意中の人がいるのですかと聞いたら、いないというのです。いないのに、何で公募ができないのかなと。でも、期待をしていたというか、ということは、4月30日にある場所で、町長は教育委員の件で多数の議員と会っていますよね。4月

30日の、これは町長が、本人がもう認めているわけです、行きましたよと、いましたよと。私のところには、5月11日に議員控室で話し合いが持たれまして、その中で学校のそういう地域的なことを考えればということで、一日も早くということで、私にだれかいないかなということで、この前私が話したように5人の学校関係者、それと2人の民間の人を頭の中に浮かべていたのですけれども、今町長は公募しないというのであるならば、では意中の人がいるのですか、その辺を話してもらわないと私のほうも質問が次に進まないのですけれども、その辺を町長、はっきりいるならいる、いないならいない、そういう流れの中でひとつご答弁を、意中の人がいるかないか、その辺をお願いしたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 意中の人がいるかないかということで考えれば、今先ほども、昨日もお答えをいたしましたけれども、早い段階でそのような任命、同意に向けての状況をつくり出していきたいということを回答申し上げましたので、いるかないかということでお答えをさせていただければ、今頭の中で考えている方はおります。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長は、今いるということなので、これは早急をお願いして、まずきのうの一般質問の中でも600日の空白期間ということは、卒業式、また入学式等で、現場のほうから議員のほうにはいろいろとやはり要請というか、言葉をいただいているのです。であれば、今町長が意中の人がいるということですから、早急にこれは任命してもらって、多分現在の委員の中でも9月には任期が来る人もいるのかなと、そういうふうに聞いているのですけれども、そういう流れの中で、とにかく早急に現場のほうの要望にこたえてもらいたいと、そういうことをお願いしますので、ひとつその辺は町長、本当に自分で渦中のクリを拾うつもりで、自分がとにかく責任を持つのだと、そういう強い意思を持ってやってもらいたい。

2つ目の質問に入らせていただきます。2つ目は、邑楽町公民館（ホール付）新築改築要望書についての質問ですけれども、これ町長は平成8年1月29日、8,162人の署名が出され、任意の、要するに議会で可決されたと、その後形が変わって平成21年11月24日に1万有余人の公民館多目的ホールを備えた設置に関する要望書が文化協会長、区長会長、愛育会長、公利連会長、音楽連盟代表者の要望書が出ている。この公民館の問題は、老朽化と障害者には使いづらい建物で、雨漏りをしたり、エアコンの故障もたびたびあったり、使い勝手が悪いと。前課長時代に私が質問した中では、補助金がどういふふうにしたら多くもらえるか調査の段階ですと、そういう過程があり、町民の文化活動の基点でもあるので、早急に省エネ化のセットとバリアフリー等に改築すべきではないかなと、その辺の早急に組織委員会を立ち上げて、本年度中に調査費を組み込めることができるかできないか、この辺課長にご答弁をもらいたい、引き継ぎはあったと思いますから、前課長からの。よ

ろしくお願いします。

○立沢稔夫議長 大拙生涯学習課長。

〔大拙 一生涯学習課長登壇〕

○大拙 一生涯学習課長 お答えを申し上げます。

今小島議員のほうから、前の課長の後を私が引き継ぎまして、公民館等の整備の補助金等についてのお話ということでございます。私が平成21年の4月に課長になりまして、その後それらの調査を行ってきました。その結果、補助金につきましては一時期まではホールの補助につきましてはありましたけれども、現在そのホール、公民館の建設についての補助事業というのはなくなっております。ただ、前ちょっとお話をした経過があったと思いますけれども、国土交通省のまちづくり交付金、こういう制度があるわけでございますけれども、この制度を使いますと、その公民館、またはホールの単体の補助ではなく、その施設を含める広域の施設整備ということで、それが対象になりますので、事業費が総合的で、事業費も非常に大きな、そういう補助になってしまうという、そういうことでございますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 今課長のほうから、補助金が建設費の云々ということだったのですけれども、この辺の、多分私公民館の場合は30%なり35%出るように聞いていたのですけれども、全体の総額の。そういう流れの中で、町長はこの組織をまずつくるのだよと、全協までやったのです、来たのです。それで、民間から2人委員を置くということで異議申し立てとか、そういうのが出た中で、いつの間にか引っ込ませてしまったから、だからこれは頓挫してしまったと思うのです。

この流れの中で、初めは6億円のこの庁舎建設に積み立てたお金が残っていたわけです。そういう流れの中で、私なんかは残ったお金で、それを充当すれば十分公民館のホールつきがきれいになるのかなと、頭の中にあったのですけれども、給食センターのほうにその財源は回ってしまったから。でも、前生涯学習課長は一生懸命やっていたことなので、いずれは立ち上げて何らかの形をとれば、例えば年間1億円の積み立てができれば、3年間で3億円です。そういうことを計画的にものやらなければいつになっても、町長は約8,000人の署名を、これは重いものですよと、そういうことで今度町民が、生涯学習課長のところに要望書が行っていると思うのです、こういう要望書が。これが前の8,000人のときの要望書です。これだけ熱い思いを町民が出しているのに、もう何ですか、これ平成21年ですよ。それで、1年過ぎていても何にもアプローチがないというのは、ちょっと町民だって冗談ではないよと言ってくるのです。そういうことを含めて、早急にこういう建設、お金がなくなると委員会が立ち上げられるでしょう。なくなると立ち上げられるのです、勉強できるのです。その辺を早急に立ち上げてもらいたい、そうでなければ前に進まないでしょう。それから、どうしたら財源ができるかなと、そういう夢がなければ、先ほどだれかが言ったでしょ

う。そういう一つの、みんなが考えて、みんなが進んでいけばきっとできるのです、ものというのは。その辺生涯学習課長、立ち上げられるか上げないか、仕事をやってください、とにかく、応援しますから。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 昨日も議員にお答えをいたしました。検討委員会の設置については、1ないし2カ月以内に立ち上げるということで担当に指示しておりますので、そのように理解をしていただいて結構でございます。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 そうすると町長はあれですか、1カ月、2カ月の間に立ち上げると、そういう流れの中で、では予算組みのほうはどんなふうな物の考え方であるか、その辺をお聞かせ願いたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 具体的に予算という話がありましたが、それらについてはその検討委員会等の中でも議論になるでありましょうし、その規模、いろいろ現在利用している方々、あるいは議員ということも昨日申し上げました。ご意見を伺う中でそれらが見出していただけののかなと、そういうふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、もう一度確認しますけれども、この検討委員会を立ち上げるについて、この検討委員会の中での建物の建築、または改築は公民館なのでしょう、その辺をはっきり明記してください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 昨日もお答えをいたしました。

邑楽町公民館、それから町民体育館等については、生涯学習の施設については、まず耐震の診断をしていただいたその結果が、補強工事を施せばその施設は利用が可能でありますというような診断が出されました。私は、既存の施設、これらもこういう状況ですので、特に利用する必要性はあると思っております。したがって、その部分も含めて、その会議の中でご議論をいただければと、そんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長。町長はちょっとずるいのではないですか。まず、建物をつくるかつくらないかありきですよ。つくることによって、委員会をつくって前へ進むのでしょうか。委員会はつ

くったのに、どっちへ行くのですかといって、だれが道案内するのですか、烏合の衆になってしまいますよ。町長が公民館をつくるのですよと、だからみんな集まって、どういうものかいいかと、それでだんだん煮詰めていくのでしょうか。大きな声出したくないけれども、どんどん、どんどんテンション上がりますよ。人のせいにしてしまうのではないですか、では委員会が決めたのですからとか。そんなトツがありますか。それでは課長がかわいそうです、本当に。あなたたちがやれよと、いいものは私がやったのだよと、失敗したらこれはみんなが決めたのだよと、議会を悪者にしたのではないですか、それでは。もっとはっきり、私とその立場ならば、まずは耐震補強をやりますよと、診断が出たら。その後、何年か後にチャンスを見てつくりますよとか、その辺の、先ほど坂井議員が言ったように、メジャーがちゃんとあなたにはないのです、頭の中にメジャーが。だからこういうふうなおかしな質問と答えになってしまうのではないですか、責任がないから。もう一度、公民館ホール、公民館をつくるのなら、それとまずは耐震補強をして、それで今度は1万有余人の署名を集めた人たちに集まってもらって、どうしたらいいとか、まずは公民館をどうするかということをもう一度教えてください。お金がないのはわかっているのです、6億円あったのを給食センターのほうへ回してしまったのだから。だめですよ、そんないいかげんでは。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私は、たしか6月3日だったと思いますが、全員協議会の中で耐震診断の結果が出ました。その結果については、特に町民体育館については除かなければならないものがある、したがって町民体育館をまず第一優先に、耐震診断とその除かなければならない事業をしていかなければならないというふうにお答えをしてあるかと思います。邑楽町公民館については、軽微な工事費でその存続が可能だということも申し上げました。したがって、私は邑楽町公民館、町民体育館については、そのような補強工事を行うことによって、町民の皆さんに引き続き利用していただくということで考えております。

なお、公民館つきホールについては、ただいま申し上げたとおりでもございますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 私は、体育館のことを聞いていないのです。通告事項に書いてあるでしょう、よく読んでください。邑楽町公民館（ホール付）新築改築要望書と、何で体育館のことを言うのですか、体育館のことなんか私質問していません。あなたはちょっとおかしいのだよ、だからかりかりしてしまうの。そして、これはなぜ私がいつまでも、これきょうで6回目です。なぜかといいますと、あそこの舞台見てくださいよ、バリアフリーも何もないのです。10人あそこへ大人の人が上がって演奏なり芸をすれば、そでがつかえてしまうのです。だから、下でダンスをやっているようです、フラダンスをやっているような状態。だから、そういうことを含めて、であれば、あのホ

ールをバリアフリーか何かに改築してもらえますか、その辺の答えを答えてもらいたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 邑楽町公民館のホールについては、バリアフリーは施されていると思いますが、舞台を利用する場合については、そのような状況ではありません。したがって、それらの部分について当然すべての町民の皆さんに利用していただくという施設でもありますので、十分その部分については担当と打ち合わせをした中で進めていきたいと思っています。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 今町長が、舞台はバリアフリーになっていないと、舞台が大事ではないのですか、そういう支離滅裂というか、舞台があって初めてホールも生きるのです。ホールと舞台は一体なのです。何でそういうむちゃなことというか、それだったら、では一、二カ月の中でどういふふうに人を集めて選任して、それで検討委員なり、それ何を検討するのですか。あなたは、今大変な時期で金がないと言っているのに、文化ホールだけつくるのですか、文化ホールをつくるかつくらないか、その辺の回答を今もらいたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ホールの改修については、検討委員会にゆだねなくとも十分可能であります。先ほど担当と調整をしてというのは、そういう意味であります。ホールをつくるかつくらないかということについては、それらについての検討委員会の中でということをお願いしたので、ご理解をいただきたいと思っています。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、あなたは首長なのですよ。町の大事な事業を、何もまだわからない人たちに任せてしまうのですか、そんなおかしな首長いないでしょう。それとも人を集めて選挙運動でもやる気なのか、あなたは。それはないでしょう。1万有余人の人たちが、子供ではないのです。ぜひバリアフリーの使いやすい、エアコンもあり、雨漏りのない、そういうところで文化活動したいですよと、何人も何人も言っているわけです。そういうことは、町長のほうに私の何十倍も、何百倍も行っていると思うのです、あなたは後援会の宴会を開いたりしているわけですから。そういうことをぬけぬけとよくあなたはそういうふうに言えますよね。だから、私は言いたくないことでも言わなくてはならないのです。だから、そういう流れの中で、公民館はつくらないと、きのうの岩崎議員のあれでも聞いています。聞いているけれども、私の通告はあなたのところへ行っているように、要は健康増進とか、そういうものに対して本当に心がありません。だから、そういうことを考えれば、何につけても人任せ、悪いところは人に押しつけてしまう、たまったものではないですよ、周りの人は。そういう流れの中で、もう一度では聞きますけれども、耐震補強をする

のですね、町長、公民館の耐震補強。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどもお答えをしたとおりでございます。実施をいたします。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 耐震補強をするということで、ホールは後の委員会に任せますよと、そういうことであなはいつもそういうふうにご責任を逃れてしまうので、非常に頼りないなと、そういうことを考えれば、これからの町政運営でもそうなのですけれども、次の質問に移る中で、また一つ町長には耳ざわりかもしれませんが、私は議員として一言あなたにお願いなりをしておきたいと思っております。

公民館ホールについては、一、二カ月中に委員会を立ち上げるということなので、早急にスピードアップして、これはやってもらいたい。そういうことで、委員会が立ち上がれば私とこれに意を同じくしている人たち、議員の一つの仕事だなど、あとは町長と課長の、要するにコンタクトをうまくとってもらって、それでとにかく弱者が楽しく、安全な場所というのですか、そういうのをつくるよう努力しなければならないなと思っておりますので、第3問に移らせていただきます。

続けて、第3問の石打の町営住宅についてなのですけれども、高層化の流れの中で、今設計またはそういう企画を見ると……休みますか。

○立沢稔夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 2時03分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 2時15分 再開〕

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 先ほどは、何回も同じ質問をして本当に失礼したと思っておりますけれども、とにかくこの議会というのは、我々は町民の代表でありますので、やはり先をどのように見据えて、また町民が希望が持てる仕事を、先ほど話しましたけれども、執行部と議会と町民がやっぱりトロイカではないが、ちゃんと正しい自分の方向性を見て、そして協力し合わなければいけないものかと思っております。

そういう流れの中で、この公民館に関して町長、もう一つだけ聞きたいのですけれども、この辺は公民館だけに限って話してください。私は、町長のほうに出してある質問事項は体育館だとか、そういうところには触れていないのです。そういう流れの中で、中央公民館建設検討委員会を2カ月の間に、要するに建設検討委員会を立ち上げますよと、そういう理解でいいのでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 検討委員会の設置ということについてあいまいなところがある、もっとはっきりしてほしいというご質問ですが、この検討委員会の設置については、どのような施設をどのように整備するか検討を進める検討委員会ということの設置であります。具体的には多目的ホール等の施設についての方向をその場で検討して決定していただく方向で考えていきたいと、そのように思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 39年、40年役所にいる町長に私が言うのは釈迦に説法になってしまうのですが、知ってのとおり公民館であれば使用料は無料なのです。文化ホールとなると、これはみんなこれからお年寄り、またお金をうんと持っている人ばかりいないと思います。先ほど話されたように、かなりの税金の増税だとかいろいろが出てくると思います。そういう流れの中で、町長、使う人が本当に気楽に一日、半日ここで過ごせてよかったよということは、やっぱりお金がかからないというようなことだと思うのです。そういうことを考えて、本当にお金がかからないようなことであれば、やっぱり中央公民館の建設検討委員会をぜひ立ち上げてもらいたい、そういうことでこれは最後は要望になりますけれども、そういうことでよろしくお願ひしたいと思ひます。そして、第3問の石打の町営住宅について質問させていただきます。続けて質問します。

第3問の石打町営住宅について、これは私のほうに、前にもこういう設計と……新しい議員にはまだ行っていないと思うのですけれども、こういう中で、これ一応3階建てになっていますよね、予定では。そういう3階建てであるのですけれども、このつくる一つの様式として、まず高島地区の学校の人口の減少に対して歯どめをかけることも一因にあるよと、それと全体的に邑楽町の建物が老朽化しているよと、そういうことを考えれば、これ町長、3階建てではなく思い切って5階建て、館林市の松沼なんかは7階建てかな、であれば、せっかくエレベーターつけるのですから、そういう思い切って高層の、これは所管でありますので、町長よりか後ろのあれでちょっと相談してもいいと思ひますけれども、それで町長が答えてくれればいいかなと。そういうことで、やっぱりせっかくつくるのですから6階建ての、3階の倍の入居者が入ることなのです。そうすれば人口も一応もっとふえると、そういうことを考えてやらなければ、せっかく何か仕事をやるのには、やっぱりできるだけ効率のいい仕事をやってもらいたいと。本来ならば、これはやっぱり南向きがいいと思うのですけれども、それと屋根が切り妻なのです。そういうことを考えて、きのうの朝日新聞の朝刊の群馬版ですか、太田市は太陽光発電のまちにしよう、もうアドバルーンぶち上げました。そして、市内の住宅など2万5,000戸に設置の構想、これはおおたまるごと太陽光発電所構想と出ていますけれども、これはこれからの、きのう町長が言っていましたけれども、やはり日本は資源がないのだから、やっぱりハードも大事ですけれども、ソフト面、これは何がソフトが大事

かということ、まいた種が全部生えるとは限らないです。だけれども、子供たちがこういうことを見ることによって、感じるのです、我々大人よりもすごく。それは教育なのです。だから、土木にしたって商業にしたって、やっぱり最終的には町の人材を育てる教育が太田市はすごいなと私は思うのです。

これ金額言いますと、この新聞によりますと1軒の家につける太陽光発電が200万円だと、だけれども、地域産学官連携ものづくり研究機構がまとめて4,000戸分を買ったら100万円で買えますよと、半値です。それで10年間の使用料を払ったら、あとは譲渡しますよと、使用者に。そういうすごい発想を持っているのです。そういうことを考えたら、町長、私が話した切り妻は午後はもう、南北の建物なので、私はつくるのに反対ではないのです。中身をもっとよく精査をして、それでいいものをつくるのです、つくるのならば。だから、まず高層にできないか、それとこの屋根を切り妻ではなくて、平らにしなければ太陽光は乗らないです。だって南北に長いのですから、午後はかなり日照時間が少なくなってしまうと思います。そういう流れの中で、太田市では年間約1,100時間、要するに太陽が当たるのだよと書いてあります。住宅2万5,000戸すべてに太陽光発電をつけるのだよと、そういう夢があります。そういうことを考えれば、町長やっぱり子供の教育、小学生の高学年、中学生が見て、きれいだな、すごいなとか、それで昔は我々の時代、町長知ってのとおり倉庫でも、大きな建物はちゃんと空気穴がありました。ところが、今は昔と違って夏が39度だとか、すごい暑い猛暑になる可能性があります。太陽光であれば、天井の熱をファンで回して、扇風機で回して逃がせれば、今度は夜のエアコンの電気料も少なくなるとか、そういう発想の転換を子供たちにどんどん、どんどんそういう教育してもらえば、学者がいっぱい出てきたり、そうすれば税金がうんと稼げるから町のためになったり、そういう長いサイクルで物を見る、物事を考える、そういうことを町長ひとつやろうではないですか。ということは、この庁舎をつくったときに、これ今議員でH議員が、Hといたって変なHではなくて、名前言ってしまうと個人情報云々なんて怒られてしまうから。H議員が庁舎建設委員長だったのかな、そういうことで、これも新しい議員には知ってもらいたいのですけれども、初めのあれでは真ん中が区切れていたのです、こういうふうに。それでローリングで、これは町長も議員でいたかな、そのときに福島設計の説明の中で、私を初めみんなが、この真ん中をもったいないよと、こんな緑が豊富な町なのだから、何か今は大会議場になっていますよね、それを切り妻にして、それでそこに後から設計変更してこのようになったわけですが、これ何回もローリングしていました。室長は、今議員になっているK議員が室長やっていましたよね。私そのとき何をメモして書いてあるかということ、議会代表は13人いました。当初設計は屋根中央がバルコニーだったのだけれども、今話したように東京都の都庁がちょうど雨漏りの大騒ぎした時代です、こういうふうに雨漏り、東京都庁が雨漏りです。15年にひび割れだの、それで1,000億円かかりますよと、その補償が。そういう場合この庁舎が、福島設計に私は雨漏りしたらだれが責任とるのでよと、そういうことから始まって、ではそのときのK室長、ま

たみんなで、やはり利用しましょうというのが今の大会議場になって、ソーラーが乗っています。本当なら全部ソーラー乗せたかったです。そうすればかなりの、今は泥縄だけれども、震災の少し節電のお手伝いできたのかなと思っていますけれども、そういう流れの中で、ぜひ町長、石打の住宅もその辺の考え方を変えて、全部ソーラーが乗るような、もう一ひねりものを考えてもらいたい。そして、上へ高いものですから、やはり安全に後で学生が見学できるような、そういうことまで考えたほうが私はいいと思うのです。そういうシステムの流れの中で、ぜひ石打の住宅のほうの屋根の、まずはソーラーが乗るようにするとか、そういうことを町長、今の私の質問というか、提案に対してどう思いますか、ひとつコメントをいただきたい。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 石打の町営住宅団地の建て替えに伴う考え方ということではありますが、何点かあったようですので、要点のみお答えをいたしたいと思いますが、まず一つは、3階でなくて5階にしたかどうかということがありましたが、これについては邑楽町町内については建築基準法の制約上、5階建てということについては今認めていただけないと。したがって、3階がその建設の限度だということでの答えをしたいと思います。

それから、太陽光発電の問題がありました。それに伴う屋根の形状をどうするかということがありますが、私も今後はこのような状況を考えてときには、節電のみならず自然エネルギーを利用するということは大変貴重なことだというふうに思っております。これについては、これから町営住宅の運営管理委員会を設置いたしますので、その中で十分そのようなことを活用できるようにお願いをいたしたいと思います。

それから、建物の向きであります。南側がいいのではないかとということ、私もこの土地の状況からすればそのとおりだというふうに思っておりますが、しかし石打の町営住宅団地の土地の形状ということが、議員もご理解いただいていると思いますけれども、あのような形状になっておりますので、できるだけそういった採光が得られるような建物の設置ということが望ましいと思いますので、これらについても管理委員会の中で十分ご議論をいただきたいと思います。

いずれにいたしましても、平成20年の3月の21日、私就任をして間もなくでありますけれども、この町営住宅の管理計画について答申が出されております。この答申の中身に沿って、この町営住宅を今後建設してまいりたい。その一つが23年度、本年度、既に予算で既決をいただいておりますけれども、実施設計に向けて、そして土地の駐車場等を考慮した中での土地の買収計画ということも既に既決をいただいておりますので、進めていきたいと。したがって、24年、25年の2カ年において3階建ての町営住宅2棟になりますが、建築を進めていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 今町長のほうから、そういう建築基準法の関係等、また敷地の形状の問題等

が説明あったのですけれども、こういう流れの中では、とにかくいかにその形状をまた生かせるようにするか、そういう流れの中では、これはこれから検討委員会の中でいろいろ議論しなくてはならないのではないかなと思うのは、1つは一番下の階を一応予定では年配の人たちに入ってもらいかなと、そういう構想であるのですけれども、これだとせつかく子供たちの、小学校の生徒云々のことがあるので、私はそんなにあそこが商店街でも何でもないので、かえって年配の人たちは、今久保林だとか埴堀だとか大黒の第一、第二とかありますから、そういう年配の人たちには例えば風の子保育園の西の住宅なんかは、こっちの商店に近いです。あと子供が、あそこに保育園があるから非常にやっぱりその辺の精神的な人間の営みというのが大事かなと。そういうことを考えた場合に、何が何でも私は一極集中は云々というので出してありますけれども、通告に。石打の住宅だけ一極そこでぼんと、あとはもう要らないよではなくて、あと傷んでいるとか、常々やっぱり補修をしていくなり建て替えていって、木造は木造でいいと思うのです。それできれいにして、それで今の、要するに半分でいいと思うのです、40戸あるところは20戸でいいよと、それをだから大黒でも何でもきれいに片づけてしまうのではなくて、館林市のほうへ勤務している人、名前を言ってしまうけれども、ビール会社へ勤務している人というのは、向こうのほうの方が断然近いのです。そういう総合的なものの考え方をやっていると、これ税の平等性からいったっておかしいことだし、だからそういうことを考えれば、もうこっちに一極集中で町営住宅つくるからいいのだけではなくて、使う人たちの立場を考えれば、やっぱり館林市へ勤めている人は館林市に近いほうがいいのだし、大泉町に勤めている人は大泉町に近いほうがいいのだし、親が近くにいれば親の近くのところがいいのだし、そういうふうの一つのことにこだわらないで、それで使い勝手のいい、お年寄りもやっぱりスーパーとか、そういう近いところがいいし、またスーパーもそういう人たちが足を運ぶことによって営業が成り立つとか、そういうことを考えれば、いろいろ多方面の物の考え方をしていかなければ、これは全部が全部公平にはいかなければ、できるだけ物の考え方を公平にしておけば、あとで人口がばっと爆発的に何かふえたときには対応ができますよね、自分の町の土地なので。そういうことを考えれば、幾らでも人は集まってものを考える、いい方向へ、いい方向へ。先ほど話したように、やはり町民と議会と執行部が本当にいろいろ考えてアイデアを出して、それでいかに人のために優しくできるかと、そういうことを考えれば、もっともっと住みやすい、いい町になるのではないかなと。そのことに関して、町長やっぱり今の住宅、久保林だとか埴堀だとか大黒とか、すごく老朽化しています。だから、あいているところから全部、言葉は悪いけれども、整理して、それで積み立てなりもちゃんと住宅何とか公社積立金をつくって、それでこの前私も話したけれども、これ10坪か12坪なのです。そうすると、建材でも群馬県のもので使えば500万円でも十分できるというように大工さんが言っています。これは、水洗トイレはまた別ですけれども、それでも補助金が出るでしょう、これ45%か50%出るわけでしょう、だからそういうことをかみ合わせて、そういうローリング、町営住宅のこれからの計画の、だれか言ったよね、要するに5カ年計

画かな、この中のやっぱりみんながいかに楽しく暮らせるかということをもみんなで考えれば、いいあれが出る、その辺の町長、これからあく、そういう古い住宅地の活用方法はどう思いますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今、町内には5団地の町営住宅があります。今提案がありましたあいているところから用途廃止をしていくことが必要ではないかということのお話がありましたが、私も同感でもございます。したがって、この用途廃止の町営住宅については、一つには石打住宅、それから久保林住宅、そして大黒の第一住宅等々については、大変建物が老朽化をしているということにかんがみて、これを用途廃止していくと、そのための施設を石打の町営住宅、約入居戸数同程度になるわけですが、そのような考え方で将来的には考えていくのが必要ではないか、こんなふうになっているところでもございます。

それから、一極での町営住宅の建て替えは不都合ではないかということもありますが、将来の大黒の第二の木造部分ということも老朽化をしていくわけでございますので、それらの建て替えを考慮していけば、この町営住宅入居者、あるいはこれから入居していただけるであろう皆さん方の利便性は図られるのではないかと、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長には、本当にそういうひとつ利便性のこと、それと町民が等しく活用できるような環境づくり、そういうことにお骨折りをしてもらいたい。

それともう一つ、これは民間で今あいている、本当に勉強家である横山課長がいろいろ調査してくれたのですけれども、今既存の民間のアパートが約3分の1ぐらいあいているのだと、そういうあいている民間アパートとの共有、共存というか、それを町もやっぱり商工会と一体になってどんどん、どんどんアピールしていく、何か足りないものは持ち主に、こういうふうには町の一つのモデルをつくって、これに当てはめてくださいよと、2階なら2階全部町で借りますよとか、そういう施策をやっていけば、せっかくあいているのですから、この前も話したけれども、みんなお金があってどんどん、どんどんつくる人というのはそうはいないと思うのです。みんなやっぱり金融機関からお金を借りて、それで大変な思いして返している状態だと思います。そういうことにできるだけお手伝いをして、そして気持ちよく税金も払ってもらう、それもやっぱり町民との二人三脚をやっていく上には、理解してもらうのには大事な仕事ではないかなと、その辺は町長どう思いますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 民間での賃貸住宅の活用ということのお尋ねですが、具体的に町商工会等を通して、その町営住宅と同等に活用したらどうかということでもあります。町では、現在民間賃貸住宅の所有者に対して、具体的にそれらについての相談というのはしておりませんが、しかしこれは平成22年

の国勢調査をもとに推計をした数字が上がっているわけでありませんが、邑楽町全体で161棟の民間賃貸住宅が推計されます。すべての部屋数、入居中ということはこの推計の中では、空き部屋数が約431部屋あるということが国勢調査の中で示されているところでもございます。こういうことを考えてみますと、議員からのお話のように町営住宅の建設も必要でもあります。また、同時に民間の賃貸住宅の借入れを視野にしてのこれからの住宅政策ということも大変貴重なものだというふうに私も認識をいたしております。

過日の議会定例会の中でも、このようなことでお答えをしたと思いますが、今後も十分所有者の皆さんとの調整もあります。町と所有者の貸し借りのいろんな専門的な取り決め等も研究していかなければなりません。有効な手段が見出せたときには、そのような状況で考えていければ、なお効率的な運営ができるのかなと、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 ぜひこの住宅に関しては、まず石打の住宅に関してはもう一回建物のローリング、また見直して、できるだけ70年の耐用年数ということなのですから、我々がいなくなっても後の人たちがすごいのだと、ひとつ学べるものを我々がつくっていかなくてはならない、またその任務があるのではないかなと思います。

そういうことで、では何があったかという、旧庁舎の解体を見たと思うのですけれども、あの解体の、私は3回ぐらい見に行けたけれども、とにかくあの時代にすごいです、鉄筋が下へがっちり入っていて。ああ、これはかなりつくる人、またはそれを検査する人、そういう人たちがしっかりやったのだと、そういうことで昔の人の心意気というのを感じました。そういうことも含めて、太陽光発電のことも、これは本当に子供たちが、こういうシステムでこういう方法であるのだと、であれば自分もそういう研究してみたいとか、人を育てることも、せっかくお金かけるのですから、人をやっぱり育てましょうよ、みんな。そういうことを念頭に置いて、いつでもこの辺のいい、みんなで仕事をしてもらえれば、決して1,000万円、2,000万円多くかけても取り戻すことができるのではないかなと、そういう夢を持って仕事をやってもらえればいいのかと思います。

それと、久保林だとか大黒等のあいた住宅については、恐らく埴堀が40軒ぐらい全部入っていると思います。そういうことは需要があるということなのです。需要をなくしてしまうということは、すごい今度は生活している人が住みよくなってしまふわけだね、邑楽町は住みよいよというのは、決してぴかぴかのところに住んでいるから住みよいのではなくて、みんな和気あいあい、小さい家だけれども、庭があって花が咲いていいよとか、そういうやっぱり優しい環境づくりというのも大事かなと。だから、あいたからみんな取っ払って、土地を売り飛ばしてしまうというのはなくて、買うのは大変です、今19号線だってそうでしょう、買えないからあんな騒ぎになっているわけです。そういうことを考えれば、本当にあした食う米がないのなら、これはしょうがないけれども、まだまだ邑楽町は13億何千万円の基金もあるわけだから、そういう流れの中では、ひとつ

町の住宅は大事に使ってもらえればいいかなと、そういうこと。それと、先ほど話した町のアパート経営の人たちといかに共存共栄ができるかなと、これはやっぱり税金を我々もらわなければ生きていけないのです、何事も。医療の関係もそうだし、学校の関係もそうだし、それとみんな一生懸命、我々が車を動かしている道路の補修でもやっぱりお金がかかるわけです。そういうことを考えれば、本当にみんなで力を合わせて、夢を持って仕事をやりたいと思います。

いつも辛口の質問をしますけれども、ひとつきょうはこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

○立沢稔夫議長 暫時休憩をいたします。

〔午後 2時51分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 3時05分 再開〕

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○立沢稔夫議長 10番、小沢泰治議員。

〔10番 小沢泰治議員登壇〕

○10番 小沢泰治議員 それでは、通告に従いまして質問させていただきます。議席番号10番の小沢泰治です。どうぞよろしくお願いいたします。

通告の質問事項は、邑楽町の財政、また人口、そして子育て、その環境についてこれからどう改善するか、これまでどうであったか、その辺につきまして行政当局をただし、またできれば提案、提言もさせていただきたいと思います。

まず、先立ちまして過去があって現在があり、将来があるわけですが、これまで4年間議員をさせていただきました。5年目に入るわけですがけれども、町当局のトップにしましては、3年半が経過したわけです。そんな中で、これまでの事業の成果、事業実績、そういうことについて少しお話しお聞きしたいと思います。

まず、その前に東日本大震災におかれましてお亡くなりになられた方、また多くの広域で被害を受けられて、非常に日本が今沈没するのではないかと、そんなような状況下で、私たちが頑張らなくて日本が再生できるか。また、このことは世界にも波及しまして原子力発電の廃止、そういうことも決議されているというか、国民が選んだ国もでございます。そんな中で、この災難をぜひこれからの日本をつくるために生かすべく、私たちが頑張らなければならないと思います。

3月、まずこれ見ていただけますか、これが群馬県のツルの首の地図です。その近辺が載っていますけれども、道路網がこのようになっています。首都圏東京から70キロ圏の邑楽町ですがけれども、そんな中で邑楽町が何をしなければならぬか、そういうことを考えますと非常に私個人的には、邑

楽町というものは洋々たるものがあると思います。それで、過日の地元の県会議員、久保田順一郎県議、また館野英一県議の議会報告、そしてまたそのときの講演をしてくださったのが、今自民党の政調会長であります石破茂代議士、農相をやったり防衛大臣をやったりという方ですけれども、その方が、私テレビでふだんは見ているわけですが、初めて直接石破元大臣を見まして、あんな、テレビで見ますと映りが悪いのですが、非常に目の前で見ますと説得力のある、またユーモアもあってすばらしい代議士だなと思いました。また、講演を聞いた中で、私すぐ居眠りが出てしまうのですけれども、最後まで居眠りを出さず耳を傾けさせた講演であり、代議士であったと思います。その席に町長も最初から最後までいらしていたのか、その辺まずちょっとお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 6月8日の日だったと思いますが、残念ながら第1部の県政報告会ということをお聞きして、退席をさせていただきました。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私が今話したように、居眠りをせずに最後まで聞き入ったわけですが、周りを見ますと町長がいないので、これは残念だったなと思いました。きょう傍聴している方も聞いた方もいらっしゃるかと思うのですが、非常に今の民主党政権、それに対峙するのが自民党なのですけれども、ためになるといいますか、やはりトップはこういうものでなければならぬのだという話をじっくり聞いてきたわけです。その席に町長がいらっしゃらなかった、私もいらっしゃらないのではないかなと思って見ていたのですが、いらっしゃらなかったということで今お話聞きました、あの話を聞いたら、4年前に町長が聞いておれば、これまでの邑楽町の町政にはならなかったのではないかと思います。そんなことで、本当に興味深く聞いてまいりました。

そして、6月15日だからきょうの新聞ですけれども、これ見ますと群馬県の知事選挙が来月の3日にございます。あした告示ということで、上毛新聞、あるいは日経にも出ていましたけれども、やはり知事は何をすべきか、群馬県のトップですから、何をすべきか、その辺もろもろが書いてありまして、またその8日のときの出席者、参加者に配られた講演会の内部資料ですか、そういうのを見ますと大澤正明知事は、私は全力で頑張りました。4年間の実績だということで、こういうことを配付されたわけです。これ見ますと、まだあの知事1期目でしたけれども、よくもこれほどもろもろの事業を実行できたものだなと思いました。やはり首長は、自信を持って事に当たらなければならぬと思います。

さて、邑楽町においてみますと、これまで町長がかわりまして3年半たちますけれども、3月の質問で、私これまでの実績、町長どうでしたかとお聞きしたわけですが、議会だよりも載っていますけれども、私は聞いたときに、公約をしたものについてどれほど仕事できましたかねという趣

旨で聞いたわけですが、町長はそのときの答弁が、先ほども点数出ましたが、75点だとか85点だとか出ましたけれども、事務事業については75%といいますか、75点だということで答弁してくださいました。私も聞き返せばよかったのですけれども、事務事業、事務的なものでなくて、公約に掲げた事業についていかに実行できたか、それをきょうはお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 小沢議員に申し上げます。

通告に基づいた発言をお願いします。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 ただいまのお言葉ですが、通告に関連がございましょうか。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 小島さんのお話ではないですけれども、まくら言葉につきましては6月8日の件、それについてはないですけれども、それ以降の財政というところで今お話ししているわけなのです。財政、ですから事業です。それで、その次には今度は人口、ここにも書いてありますけれども、邑楽町の財政、人口、子育ての環境改善についてということで、財政、事業について今お話しさせていただいております。

○立沢稔夫議長 関連のない発言は避けてください。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私がこういう立場で就任をいたしましたのは平成19年12月19日、以来3年半を経過しようとしておりますが、この間における町民の皆さんへの業務ということについては、私も精いっぱい努力をしてきたつもりでございます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 精いっぱい努力をするのはわかるのですけれども、公約を掲げたものについて、ただ単なる事務事業ではなくて事業執行、そういう面について。3年半ですから、完成までは行かないこともあるかもしれませんが、それがどれほどであったかということをお聞きしているのです。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 各会計年度がございます。平成20年度、21年度、22年度とそれぞれ4月から翌年3月までの事業年度があるわけでありまして、それらについてはつぶさに議会のほうにも報告をいたしておりますので、ご理解をいただけるものと思いますが、特に大きな点を申し上げれば、私は保健、福祉、教育の問題について、特に福祉では福祉医療の15歳までの、中学卒業までの医療費の無料化、翌年の10月には県のほうで医療費の無料化についての補助金等をつけていただきました。

たが、そういうことをかんがみれば、児童、子育て環境の充実に向けて幾分なりにもお手伝いができたかなと、一例で申し上げます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 掲げた公約に対していかほどでしたか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 公約については、すべて約束どおり実行できたとは思っておりません。今後も公約実現に向けては鋭意努力をして、町民の皆さんへのサービス、そして町勢発展のために努力をしていきたいと、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員、通告に基づいたものでお願いしたいと思います。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 事業執行についていかほどか、私が質問したものについて1度で答えていただければくどくどとしないわけですから、何割実行できたでしょうか。

○立沢稔夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 3時23分 休憩〕

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 3時35分 再開〕

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 先ほどは休憩いただいて、皆さん迷惑かけまして済みませんでした。

これにつきましては、邑楽町の財政、人口、子育て、環境の改善ということで、現状を見ながらそれを改善していく、住みよい邑楽町をつくるというのが私の考えでありまして、今がわからなくて改善何したらいいか、その辺もわからないと思うので、まず最初に質問させてもらったわけです。そんな中で、町長からの答えが得られなかったものですから、医療費の関係はちょっとお話出しましたが、ですから私のほうからお話しさせていただきますと、まず皆無に近いということが私の結論です。

そんな中で、先ほど実行できたという、今現在は群馬県から予算措置されていますけれども、医療費につきましても現実に、それ自体はいいことですが、それに至るものが皆さんご存じの、あのピラのことです。そういうことでありまして、私から見ると皆無に近いと、極めてゼロに近い、事業執行についてはゼロに近い。そんな中で、財政をどのように改善していったらいいかに入りたいと思いますけれども、こういう厳しい経済環境の中で、増収策としまして、まず入りがなければ出をつくることはできませんから、増収策について町長どのようにお考えであるか、お聞かせ

ください。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員には、大変厳しい評価をいただいております。そのようなことがないように、今後も努力をしていきたいと思っております。

さて、お尋ねの町の増収をどのように考えているかということですが、おかげさまで町の23年度の当初予算、これにつきましては75億5,000万円からの当初予算を計上させていただきまして、その中で約46%が町税収入ということであります。そして、自己財源を見ますと約6割近い56%の歳入ということで運営をさせていただいているところでもございまして、私はこれらの増収策がいかようなものであるかということについては、先輩の皆さん方が大変ご苦労されて、工業団地の造成や、そして現在ではその団地もおかげさまですべての、あと2ヘクタールほど残しての企業誘致も立地をいただきました。そういうことを考えますと、協力をいただいた地権者の皆さんには大変ありがたく思うわけですが、その増収策ということを考えますと、やはり現在の経済状態でもあります。一日も早く経済状況がもとに戻るような、そして個人所得等が伸びるような、ということが求められるのではないかと、そのことをこれから努力していくことに尽きるのではないかと、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今町長お答えいただきましたけれども、過去の事業についてそれが実っているだけのことなのです。横山元町長が大変な思いをして鞍掛第三工業団地実現させました。それも始まる前には、横山元町長は私のところへ相談に来ました。小沢さん、どうかねということで相談に来まして、町長とるる話ししまして、ああいった格好ででき上がったわけですけれども、そこに工業進出するのも町長の仕事かもしれませんけれども、ほとんどが県からのお話等々で、横山元町長がつくってくださったから今があるので、私、金子町長の手柄だとは思っていません。それが工業団地の実情です。

それで、あと2ヘクタールで終わるということですが、税収がなかなかふえない、そんな中でどのようにしたら税収をふやせるか。先ほどもお話ししましたが、首都圏で都心から70キロ、高速道路網はある、バイパスはちゃんとでき上がる、そんな中で先手を打たなかったら、ほかの他市町、村はないですけれども、他市町に追い越されていってしまう。例えば館林市が東洋水産が進出しまして、雇用も出ていますし、また固定資産税も、あるいは住民税も、そういうことで潤う方向に向いております。佐野方面に向かえば、またカルピスの横で団地、そういうこともあります。立地がすばらしい場所にあるわけですから、ぜひその辺考えていただいて、邑楽町が他市町に比べてすばらしい町になるように努力するのが首長かと思えます。

昨晩ですが、隣町の金融関係の会合で、私大泉町の町長とお会いしました。いろいろ話しまし

た、ざっくばらんに。そんな中で、やはり町はトップセールスが大事だなということを痛切に感じてまいったわけです。そんな中で、邑楽町のこれからについて増収策、税収をふやす、補助金交付金でなく、その辺を町長どのように今後進めるか、考えているか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私は、決して手柄にしているつもりもありませんし、行政の継続性というのは大変大切なことだと思っています。したがって、先ほど先輩の皆さん方が大変なご苦勞をされて現在の邑楽町があるわけでありますので、それを少なくとも次世代の方に安心して住めるような町をつくるというのが、現在私に与えられた使命かなと、こんなふうに思っております。

さて、お尋ねの増収策ということですが、先ほどお答えいたしました。町には、それぞれの計画がございます。1つには、土地利用計画があります。先ほどの障害者の福祉計画、高齢者の保健福祉計画等々あるわけです。その計画に基づいて事業を進めていくということを考えた場合に、邑楽町、農業、工業、商業を一体とした町づくりをとということがかねがね言われております。そのことの土地利用を考えた場合に、私は慎重に、具体的に申し上げれば工業団地等を造成すれば一番手短なお話かもしれませんが、そういった計画を十分慎重に考えていく、町民の皆さんへも訴えていくということがなければそのようなことになりませんので、十分町で計画されている、その計画に基づいて、先ほども総合10カ年計画というお話がありましたが、それらに基づいて進めていくということでご理解をいただきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長、そんな抽象的なことでは町は伸びないのです。公約にもあったでしょう、トップセールスをするのだ、開拓しなければ。それがいいではないですか、どういう開拓をしてきましたか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町の収入というものは、議員もご承知のとおり税収が主なもの、46%ということになっています。その中に、交付金等があるわけでありますけれども、依存財源といいますと、いわゆる起債ということの理解をされる方がおられるようではありますが、私はそのように思っておりません。町で事業執行を行う場合に、その国、県からの補助金をいかに求めてくるかということが大切なことでもあります。一例を申し上げます。23年度の事業、学校教育の環境、施設を整備するというので、エアコンの設置を予定しております。これも大変な町民の皆さんの貴重な税金を使わせていただくわけでありますが、この総事業費の約8,000万円、私も国のほうへ行き、その対応で当たってきた経緯はあります。おかげさまで、その補助金等もつけていただいた。したがって、その事業が取り組めるわけでありますので、トップセールスということのお話がありましたが、私も常

々そのような状況については伺い、県のほうにも出向き、状況をつくってきている、そのように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 エアコンがつくのも非常にいいことです。また、エアコンを稼働すればランニングコストもかかります。そして、現実にこのエアコン設置というものは、他市町は例えば館林市見ても、もうやっているのです。後追いですよ、たまたま猛暑ですだから国も前向きですし、そういうことではだめだということを私はお話ししたいわけです。そういう中で、非常に財源は乏しい、学校でエアコンを設置するならば、文科省がでは補助金だか、大変だから出してあげるよ、それは十分わかります。

続いて、過去にも提案もされましたけれども、課、係の統廃合です。これを今後、あと6カ月ありますけれども、どのように進めるか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 行政改革のお話かと思いますが、私は以前定例会に機構改革の提案をさせていただきました。残念ながら否決という形であります。そのことは、15課を13課ということ、係の統廃合も含めてであります。そういったことを考えたわけではありますが、そのような状況です。しかし、任期中にということの話で限定をいたしますと、その機構改革については十分慎重に対応するということを考えれば、任期中についてはちょっと無理かなと、そんなふうにお答えをいたしておきます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 課、係の統廃合、統合、それしますと非常に人員削減が私は可能かと思えます。そういうことで、ぜひ進めていただいて、町民サービスが今まで以上に行き届くように、少人数の係ですと1人休めが用が足りないですよ、またあしたなら出てきているから来てください、そういうことになってしまいますので、ぜひ7人くらいの係、一つの係というか、3部門なら3部門持つてもいいのですけれども、一つの係をそういうふうにして、町民に不都合がないように、ぜひ改善していただきたいと思えます。

あとは、課、係が多ければ、国はここに名札がありますけれども、そのように省庁があります。そんな中で、ぜひ町の段階においてはそれを統合して、人員の削減、またサービスの向上に努めていただければと思えます。そうすることによって、課長手当あるいは係長手当、邑楽町の町長以下を見ますと、課長、課長補佐、係長、そういう役回りの方が非常に役場職員の中で私は多いと思えます。民間出身の方も議員でいっぱいいらっしゃいますけれども、その辺の取り組みについてお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 国では、行財政改革のプランニングができております。町においても行政改革プランに基づいて、その人員の定員管理を行っております。現在198名の職員でことに当たっているわけでありましてけれども、その定員については202名ということになっておりますが、このこと一つとっても、一人一人の職員が自分の持てる力を発揮して行政事務に当たっていると、そのように私は職員頑張らせていただいているというふうに思っております。そのことが、結果として町民の皆さんにサービスの提供が効率的に果たしていけると、私は職員の皆さんが日々努力をしていただいていることに感謝をし、私自身も先頭に立って頑張っているつもりであります。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 現実には、少人数の係ですと不都合が生じているというのが現実です。そういうことがありますので、ぜひその辺前向きに考えていただいて、これからをお願いしたいと思います。

続きまして、職員の給与の削減なのですが、ラスパイレス指数、国家公務員に対して地方公務員はどうかということであるわけですが、同規模の自治体、団体と比較しまして、類似の役場ですが、現在指数が平均と比べまして3.1ポイント邑楽町は高いわけなのです。そういうことを見ますと、やはり引き下げる余地があるのではないかと、そのように思います。全国平均から見ましても2.7ポイント高い。私は、町長みずから先頭に立って、すばらしい本当の意味の自主財源、税収のふえる策をとれば、固定資産税あるいは住民税、いただければ、また高くてもいいと思うのです。それがなされないで、これまで2代、3代前の町長が実行してくれた計画を、今ただ39年間役場に勤めていた、その気持ちでやっていただくのでは、首長としてふさわしくないのではないかと思います。そんな中で、この3.1ポイントあるいは2.7ポイントの比較して多いこれの改善、組合で執行委員長をやった町長ですから、いろいろ立場上難しいこともあるかもしれませんが、ぜひ大きい気持ちで、民間企業は非常に厳しい中で頑張っております。そんな中で、この平均と比べましても3.1、2.7高いわけですから、これをどのように改善していくか、あるいはこれができないものであれば、どのように税収をふやすか、それをお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ラスパイレス指数のお話がありましたが、議員もご承知かと思いますが、この指数については国家公務員の一般行政職をもととした数字、すなわち100を基準にして出されたものであります。邑楽町の職員の給与指数が高いのではないかとというようなお尋ねですが、議員がどこを基準にしてそのような形でその数字が出たか定かではありません。3.1%、2.7%多いというようなご指摘であります。私は他の類似団体、全国41団体あるかなというふうに思いますが、そういうことの地域を比較した経過はありませんが、私は決して、このラスパイレス指数というのは21年

98.4%、同時にこの指数を精算するには年齢要件がかかってくることはご承知かと思います。そのことを考えましたときに、邑楽町の職員給与体系が高いというようなふうを受けとめたわけではありますが、私は決してそのような状況にはないだろうと思っています。まして国家公務員の給与が削減をされるというような動きがあるようでありますけれども、これらがどう動くかわかりませんが、私は邑楽町の指数が高い、そのようには思っておりません。具体的に申し上げますと、22年の4月1日現在の県内平均98.8%であります。邑楽町97.8%、ワンポイントだけ低いということ、この経過の数値を見ても私はそのように理解ができるかなと、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私が話ししているのは、類似の団体の平均と、同じようなのと比べて……〔何事か呼ぶ者あり〕

○10番 小沢泰治議員 いや、ここに資料があるのです。比べて、先ほど98.8とかというお話ししましたけれども、現在は97.8%ですよ、22年の4月1日ですか、なっているので、類似のと比べて高いから、高いと言っているのです。そういうことで、ぜひこの辺も努力していただきたいと思えます。係の統合をすれば、職員の皆さんみんな頑張っているわけですから、楽しんで町民サービスが向上するというふうには私は思っております。そういうことで、ぜひ労働組合の執行委員長ではなくて、町長として頑張ってみてください、民間企業を見ながら。ぜひお願いします。

その次に、先ほど出ました役場の給料の引き下げの件ですが、そういうことがあるから、ぜひ類似団体、あるいは全国平均、その辺を考えてみていただければと思います。

それから、先ほど税収のお話ししましたけれども、先ほど354の話出しましたが、ぜひそういう中で、この後人口の減少の話が出ますけれども、そういう中ですばらしい道路が大澤県政のもと、東毛に光を当ててくれて完成しようとしております。そんな中で、私農業団体でも商工団体でも行政でもいいのですが、各交差点に、354の交差点、12くらいあるかと思うのですが、上り下りに電光の看板を立てていただければと思います。邑楽町全体のため、あるいは商工業者、農業のため、あるいは農産品、先ほども出ましたが、白菜だとか米だとかということで出ましたけれども、そういうのを1分か2分の時間帯でいいのです。それで、できるだけ24時間、一日あるわけですから、その24時間を有効に活用して、各交差点の手前に行きますと、あるいはそこに差しかかりますと、もうばらばら、ばらばらそれが見えて、人間でも動物でも昆虫でもそうなのですが、動いているものに引かれるわけなのです。そういうことで、ぜひそれを実現する予算措置を役場でとっていただきたいと思えます、行政で。なぜかといいますと、1日が1,440分あります。1分ずつ使ったとしますと、いいのです、例えば邑むすびでも、あるいは邑楽のほかにもろもろ、うどんでもセンバイでも何でもありますけれども、それを1分ずつやると1,440分ありますから1,440できるのですが、その数少ない業者を載せるのだと不公平感がありますから、やはり公平公正、クリーンということで、そういう中で募りまして、その中で1,440分あるのを2分の1でも4分の1でも切って、そこに1

分ずつ入れて、そこを通りかかった人はちょっと見かける、また通りかかった人がちょっと見かける、そういうことにして邑楽町のイメージアップ、製品の宣伝といたしますか、コマーシャルをしていただければと思います。行政もだし、各団体もですし、あるいは個人事業、そういうのもろもろ包含しながら、ぜひ実行していただければと思うのですが、1件当たりの費用にしますと1カ月1,000円もかからないと思います。ピラを邑楽町じゅう入れれば8万円も9万円もかかりますし、そういうのから比較しまして各事業者、団体の負担は非常に少なくて済みますから、それを実行していただきたいと思うのですが、なぜかと申しますと354は交通が非常に激しくなる、全通すればなるという前提がありますから、全通する前に、もう計画を立てていただいて、実行していただければと思います。

私の家の宣伝になってしまいますけれども、私の家は電光看板立てています。あんなの単純に見ると引き合いません。だけれども、あれがあることによってイメージというか、宣伝にはなるのです。ただ、画面の工夫がいまいち私の家足りないので、変更しなくてはならないと思っていますけれども、その辺について金は、それを実行する計画を立てれば各事業者なり団体が負担しますから、お金はかかりません。かからないって、各事業者それを1,000円とか800円とか持つのですけれども、1カ月。非常に安く済むので、ぜひお願いしたいと思うのですが、その辺どのように取り組んでいただけるか、お話お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 電光掲示板の予算化ということですが、産業を振興する面の立場ということかと思えます。議員、商工会の理事という立場で、商工会のほうでもこういった議論がされた上でのことかなというふうに思いますが、その電光掲示板の設置をした、それができるかどうかは別といたしましても、受け入れる企業、商店等の、いわゆる商工会に参加する皆さん方の理解ということも大変大事なことではないかというふうに思えます。電光掲示板つけました、邑楽町、そばが有名です、うどんもありますというような形で仮につけたときに、そのことを受け入れる商店の皆さんへの、やはり協議といたしますか、理解も私は大切な一つではないかと思えます。そういう点では、議員、商工会の理事という立場でもありますので、商工会の中で十分議論を進めていただいて、いろいろ研究をさせていただければと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 商工会というお話出ましたが、商工会に入っている企業ですか、事業者は600弱です。商工会、その事業とかそういうものではないのです。ですから、行政が引っ張って、トップセールス、自分が引っ張っていく、それが必要なのです。今まで39年いたから、役場の職員のつもりではだめなのです。ゆうべも、さっき話しましたけれども、斉藤町長すごいですよ、高齢という用語弊がありますけれども、ファイトがあります。それで、8日の話に戻りますけれど

も、あの日もぜひ町長、最後まで石破茂さんの話聞いていただきましたかった、私残念だなと同僚の議員にもお話ししましたけれども、そういうことで、ぜひ町長みずからが先に立って、よく今私がお話した電光のこと、コストだとかどんなものか、それ計算してみてください、たかが知れていますから。個人で立てたら1万5,000円なり2万円かかるのです、1カ月。だけれども、多くの企業が24時間それ照らし続ける、動き続ける、その効果を考えて、ぜひできれば行政としても負担協力をいただいて、実行していただければと思います。

そして、もろもろあって大変ですけれども、人口減少ということがありますから、合併のこともこれからの邑楽町のあらゆる面の環境改善ということを考えたら、あるいは将来を考えたら、合併ということも念頭に置かなければならないと思います。合併についてお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 小沢議員、合併がきょうの通告と絡んでいくわけですか。

○10番 小沢泰治議員 ですから、財政、人口、子育て、その環境の改善ということですから、もちろん合併も入るわけです。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 隣町の町長がすごいということの好評がありました。私もそのように努力をしてみたいと思います。

さて、6月8日の講演会の中のお話がありましたが、私は町内の公務があったものですから、退席をさせていただきました。先ほど言葉足りずで申しわけありませんでしたが、その講演会の重要性と町内の重要性ということを私なりに判断をして退席をさせていただいたということでございますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

町財政の問題と合併の問題ということでどのような考えかということではありますが、合併のことについて通告に入っていれば具体的にお答えもできるわけではありますが、大変恐縮ですが、勉強しておりませんので、お答えは差し控えさせていただきたいと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

静粛にお願いいたします。

○10番 小沢泰治議員 町行政というのは、非常に広範囲なのです、百貨店ですから。すべてですから。そういう意味では、当然私は入るものと考えております。そういうことから、合併については方向性とすれば、する必要はあるというふうに考えております。

続いて、人口の問題に入らせていただきます。合併との兼ね合いも十分ありますけれども、邑楽町のゼロ歳から100歳までのこういうグラフがあるのですけれども、こんな中でこれを見れば一目瞭然、これから町は大変だなというのわかります。私たち、この線が引いているところが私の年なのですが、それからちょっと若い方がいっぱいいらっしゃいます。町長の年代からふえているのですけれども、それをこの少ない人数でしょっていく、そういうことがありますので、先ほど言った

財源の問題、あるいは合併の問題が出てくるわけです。それは、なってからそれを考えたのでは遅いのです。企業誘致にしても、ほかよりも先にやらなければだめなのです。例えば千代田町にジョイフル本田が来た、弊害もあります。だけれども、これだけ立地がいいところなのですから、ぜひ地権者皆さんと話をし、一部の人でなくて。それで、邑楽町のこれから何すべきか考えていただきたいと思います。こういう中で、ゼロ歳から100歳まで載っているグラフ、そしてこの後ろには邑楽町の人口等についてということで世帯数、男女、あるいは総人口ということで載っておりますけれども、もう平成17年から減り続けております。そういう中で17年がピークなのです。2万7,921人がピークで、邑楽町は2万8,000人にならずに人口減少に入っております。そんな中で、先ほどのこのグラフを見ればもう一目瞭然ですから、人口問題についてどのように考えているか。出生と死亡を見ても、平成13年から逆転しかけております。16年からは逆転、ずっともう逆転です。これが自然増減です。それで、自然と社会があるわけですがけれども、転入、転出があるわけですがけれども、転入、転出につきましてはバブルがはじけて平成8年から逆転したり、あるいは転出が多かった、転入が多かったりしているわけですがけれども、平成17年からは転出のほうが多いと、そういう中でどのように町長考えておるか、先ほど合併のことは云々話ありましたがけれども、そういう先々のことまで考えてやるのが首長の仕事だと思いますけれども、いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 人口問題をどのように考え、どのようにとらえているかということのお尋ねでありますけれども、人口の減少については、単に邑楽町のみならず、県、国においてもそのような少子化現象が進んでいるわけでもありますけれども、その減少をどのように対処するかということについては、非常にいろいろな課題等があるだろうというふうに思っています。1つには、子育てをするための経済的な負担、それから仕事との、子育てをする上での子育てとの両立の難しさ、そしてそのことが精神的に、肉体的にも大変苦痛があるというようなことも、その要因になっているのかなというふうに思うわけですが、しかし、一人の女性が一生涯に産み育てるといって、いわゆる合計特殊出生率等を見た場合でも、大変この率が下がっております。15歳から49歳までの女性がということの推定人数を示したわけですが、現状の人口を維持するということでは、2.07から2.08以上の出生率がないと維持できないというような統計数値も出ているわけですが、町のほうではそれに比較して1.21ということで、大変低いわけがあります。これは平成21年の統計でありますけれども。そういうことを見たときに、果たしてこの歯どめといいますか、それを求める、いわゆる対策、大変難しいわけでもあります。しかし、1つには子育て環境を整備するということも環境が改善されるものでもあるでしょうし、職場の雇用といいますか、職場の……多く図るということも、ある意味では逆な面もありますけれども、人口の転入ということを考えれば、それらも効果があるのかなど。いずれにいたしましても、少子化対策を進めていくだけでは、この人口の増加ということに

は結びつかない部分もあるのかなということを感じております。明快なお答えができなく恐縮であります。そのようなことでこれからのご指導をいただければと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 非常に消極的なのです。国が趨勢で減っているのだから、それでいいのだと、そうではないのです。先ほども言っていますけれども、首都圏70キロ圏、東京まで。まして広幹道があるのです。その利活用、あるいはこの豊かな自然環境をPRして、邑楽町はすばらしいのだということでも売っていただければいいと思うのです。例えばシンボルタワーもできています。あれも私反対しましたが、あれは金食い虫だからよしたほうがいいということ。だけれども、できてしまったものですから、あれ活用しなければなりません。それで、先ほど電光看板の話もしたけれども、そういうものの相乗効果を図るように行政がぜひ先頭切ってやっていただければと思います。

人口減少は、これは日本の経済環境、あるいは社会環境から、ただ単に考えていけば減るのですが、このグラフを見てもわかりますが、減るのですが、これを何とかするのが行政だと思います。あるいは商工会だと思います。商工会は、商工会員みんながよくなる、あるいは商工会に入っていない方までが恩恵を受ける、そういう団体でなければならぬと私も思っております。ですから、理事会等ありましたらまたお話をさせていただきますけれども、もう一度今の地理的条件のよさ、そういうのを念頭に置いて、町長のお話、短くて結構ですからお願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今議員のほうからいろいろな提案があったわけでありまして、行政のほうとしても地の利を生かせというようなこともあります。十分研究、検討した中で進めて、そのような人口減の歯どめがかかるような行政運営をしていきたいと、議員の今後のご指導もよろしくお願いを申し上げます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 よくなる会社もよくなる組織も、やはりトップ次第だということをよく聞きますけれども、近隣の市町でも非常に前向きに事業を実行しているところもありますから、ぜひ町長、あと6カ月ですけれども、力を発揮していただいて、邑楽町をよくしていただければと思います。やはりこれからは、私個人的には民間出身の首長がいいのかなと思うのですけれども、その辺もおいおい出てくるとは思いますが、ぜひ人口をふやす、そのための施策何やったらいいか、考えていただければと思います。実行をお願いします。

次に入らせていただきます。子育てについて。財政の環境、人口の環境、子育ての環境の改善ということで質問事項ありますけれども、子育てについて先ほど子育てと医療だ介護だ福祉だということ、重点置きますというお話ししました。

〔聞こえないよ〕と呼ぶ者あり〕

○10番 小沢泰治議員 済みません、議長、注意してください。

○立沢稔夫議長 傍聴人の方は静粛をお願いします。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 傍聴の方は静粛をお願いします。

○10番 小沢泰治議員 非常に前政権といいますか、前の町長が非常に将来ある子供たちのために、あるいは高齢者が安心、安全で、子供たちについてはすくすく育つように、心身ともに育つようにということで力を注いだと思います。そんな中で少し取り残されてしまっているのが、順次やる予定だったのでしょうけれども、中央児童館が非常に老朽化しているわけです。行って見てもらえばわかりますけれども、商工会の近くですから、あそこ私よく通るのですが、そんな中で、4児童館あるわけですが、非常に利用者が毎日毎日多いのです。午前中はどちらかというとな少ないのですけれども、多い。そんな中で児童館の、先ほどもいろいろ、過日も話出ましたが、耐震診断、幼い子が地震の被害に遭わないように、そういうことを考えたときに、児童館の耐震診断をまず優先すべきだと思いますけれども、あるいは耐震補強、あるいは改築、移転改築でも結構ですけれども、そういうことについて今現在町長どう思っているか、どう実行しようとしているか、お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 4児童館ある中での中央児童館、確かに建築から年数がたってしまっていて、老朽化といいますか、近づいているかなと思います。児童館の耐震診断を行う考えがあるかないかということですが、耐震診断ということの前に、その児童館の建築年の問題もあります。したがって、診断をする前に担当課長をして専門業者、建築業者や設計業者等の検討をさせたいと思います。その後、その必要性ということがわかるといいますので、耐震診断ということで順次進めていくということを考えていきたいと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ぜひ中央児童館については、まだ老朽化している設備、施設が一つ残っているわけですから、早急にそれを実行していただければと思います。予定とすると、いつごろまでにだかを聞きたいのですが。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 そこで児童生徒が遊んでいる、利用している、その危険性があるということを考えれば、予算がまだ積算はしておりませんし、既決もありませんので、その予算計上をして既決をいただいた後に、早い時期に検討をさせたいと思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 いいお答えをいただきましたので、私も質問してよかったなと思っているのですが、全体についてちょっとお話しさせていただきますけれども、先ほどの財政だ、人口だ、子育てだということありますけれども、質問にも出ていましたけれども、町民に情報を流すのがベスト、ベターではないのではないかということの話も出ました。

そんな中で、ぜひ私実行していただきたいのが、過日の選挙では選挙公報を実行していただいて本当にありがとうございました。職員の皆さんには大変な手間かけたわけですが、またこれは手間がかかるかかからないか、それはわかりませんが、でも行財政改革の一環になるかと思うのですが、邑楽町には例えば町役場がある、社会福祉協議会がある、議会がある、何だかんだいっぱいあります、公的なもの。そういう中で、農業委員会もありますし、土地開発公社だいろいろあります。各種団体が、例えば議会だよりだとか広報おうら、そういうものを別々に出していると思うのですが、それを全部一緒にまとめて一冊にして、それを配布する格好にさせていただければと思うのです。そうしますと、例えば農業委員会の農業委員会だより、選挙がありますから農業委員会がしますけれども、農業委員会だよりを独自に出しているそれを、広報おうらの中に1ページとか2ページ入れるのです。そうすると、表紙の部分等が要らなくなりまして、トータル的には議会だよりもそのようにもろもろしますと、相当の経費の節減になると思うのです。また、町民の皆さんが先ほど情報公開どうだ、それを見ているのか、わかっているのかという話出ましたけれども、私が広報おうらを見ますと、私は町民に知ってもらいたい情報の中で要らないものが相当載っているのではないかと思うのです。それを整理していただいて、各種団体ともお話しして、それで一つにまとめて、できれば月に2回くらい発行していただければ、一つにしてしまいまして、そういうふうにしていただくと、町と町民がすごく近づくと思います。各種団体と町民がすごく近づくと思うのです。そういうことで、その実行について町長のお考えをお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、実行については現時点では無理ではないかというふうに思っております。その理由でありますけれども、それぞれの発行する、例えば議会だよりが広報おうらと別に発行されておりますが、その中に議会は議会としての内容、農業委員会は農業委員会としての事業内容を細かく町民の皆さんにお知らせをするということを考えれば、私はそれで十分効果があるのではないかと、こんなふうに思っております。

また、広報おうらの発行の中で要らないものが相当載っているというような議員のご指摘ですが、私はそのようには感じておりません。町民の皆さんから、広報おうらが発行すること、大変愛読をさせていただいて、その声は大変あります。細かいところまでお知らせしていただいてありがたいというようなお話も聞きます。担当する広報担当も、それぞれの立場でその聴取、いわゆるデータ、

ニュースを聴取して、町民の皆さんにできるだけ細かい点までお知らせをするということで臨んでおりますので、私は十分この広報おうらについては、要らないものというのは載っていないと、このように思っております。もしそのようなことがありましたら、ぜひ議員のほうからご指摘をいただいて、いろいろご指導いただければと思います。

そういうことでありますので、一つにまとめて月2回発行ということについては、現時点ではちょっと無理があるのかなということでお答えをさせていただきます。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私は、議員にならせていただいた4年前から、ぜひ議会だよりも広報おうらにしても、もろもろについて目を通していただければというふうに非常に強く感じておりました。

現実には、選挙で講演会、そういうことでお伺いしてみても、やはり見ていないという町民、あるいは家庭が多いわけなのです。それが一つにまとめて、邑楽町のもろもろ情報がこれに入っているのですよという、先ほどの宣伝ではないですけども、情報公開ではないですけども、そういうのを徹底したら、きっと見てくださる方がふえると思います。私は、もう常々思っていましたけれども、その関係があって、この質問をするのに私調べてみました。それで、広報をこの近辺で一番多く発行しているのが太田市なのです。太田市は、月3回発行しているのです。それで、どんなことやっているのだということで、市長あるいは広報の方に聞いたら、これ上から読んで見ますとページ数も載っているのですが、社協だより1ページ、議会だより8ページ、社協だより1ページ、これは4月から3月までであるのですけれども、水道だより、土地開発公社1ページ、2ページ、農業委員会2ページ、社会を明るくする会ですか、2ページ、議会、水道、社協、土地開発公社、シルバー人材関係、国際交流、もろもろが1部で載っているのです。今現在毎月配られているのを見ますと挟み込んであって、それで読まない家と読んだ家、もろもろがすべて載っているのですよということをPRすれば、きっと効果があると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。そうすることによって、町を知り、町全体を知り、行政と町民が一体になる、そういうことがありますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

子育て環境が最後だったのですけれども、そういうことで、子育て、幼稚園も保育園も小中学校あるわけですが、ぜひ働きやすい邑楽町にするために、運用時間といいますか、開館時間、あるいは開館日数等につきましてもぜひ検討いただいて、例えば風の子保育園等については、時間が町のよりちょっと長いのです。そういうことでもろもろ研究していただいて、使い勝手がいいように、また先ほども子育て……合計特殊出生率ですか、それについても1.21だとか話ありましたけれども、その改善のためにもぜひお願いしたいと思うのですが、町長いかがでしょうか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 保育園、町内に公立が3園、私立が1園ございます。その保育時間について、私立は早く預かり退園も遅いと、このことを時間で申し上げますと、確かに風の子保育園、午前7時から19時までということになっております。公立保育園3園については午前7時半から18時30分、30分朝早く、退園が30分長いということを時間で比較すれば、議員がご指摘のとおりかと思えます。担当する福祉課のほうも、保育園の保育時間、児童館の預かり時間、幼稚園の預かり保育時間ということも町民の皆さんのご意見をお伺いして、順次この時間を定めてきた経緯はあります。

したがって、私は現時点では就業するための子育て環境ということは、十分ではないかもしれませんが、ほぼ理解をいただけるものではないかと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。残り7分です。

○10番 小沢泰治議員 1時間半時間いただきまして、邑楽町の財政、事業、それと人口の状態、今後、そして子育て、また邑楽町をPR、邑楽町の産品をPRするにはどうしたらいいか、そういうことで質問、お話しさせていただきました。行政をただし、町に提案、提言をし、それが議員の責務だと思います。

16人の議員から14人に減りました。私、12人でよろしいのではないのかなと個人的には思っているのですが、ぜひ議員定数を減らす、あるいは邑楽町発展のために施策を打つ、もろもろありますけれども、やはりこの354号線が開通するわけで、鉄道は走っています。国道も2本通っております。そんな中で、これを有効に使ってすばらしい邑楽町をつくり上げていただければと思います。そして、やはりこれからの邑楽町、発展する邑楽町をつくるために、民間出身の首長どなたかなっていただいて、すばらしい環境があるわけですから、それを十二分に活用して職員の皆さんのやる気、それと施策、あるいはトップセールスが相まって、すばらしい邑楽町になるようにしていただければと思います。

あと4分ありますけれども、1時間半にわたって話させていただいて、ありがとうございました。

◎散会の宣告

○立沢稔夫議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。あす16日は議案調査等のため本会議を休会としたいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 異議なしと認めます。

よって、あす16日は議案調査等のため本会議を休会とすることに決定いたしました。

来る17日は、午前10時から会議を開きます。

本日は、これにて散会します。

大変お疲れさまでした。

〔午後 4時44分 散会〕